

# トラック競技



# トラック競技審判長

## 1 任務

規則や競技注意事項（競技会申合せ事項）等に規定されていないことについて判断し、決定を下す。

規則に規定されていることは、その規定通りに適用すればよいが、そうでない事案に対しては

- ① 過去の事例から類推し、判断し決定する。
- ② 規則の解釈で判断し決定する。

という運用が必要になる。

そのためには競技規則の精神（競技者の公平で平等な競走条件の確保、記録の信頼性の確保）を理解し、審判員としての経験が豊富なことが重要になる。

そしてその判断・決定事項が競技者や競技にとって公平・平等であることが必要である。

## 2 スタート審判長

2013年度より、CR13 競技会役員にスタート審判長（1名以上）が追加された。

スタート判定に対して問題が発生した時に、最終判定をするのがスタート審判長の役目であり、抗議が発生した場合もスタート審判長からの説明が必要になる。

スターターメンバーがスタート審判長同等の任務を兼任すべきではなく、スタート運営と切り離すことで、客観的な判定ができるようにする。

スタートの運営（スタートに関わる審判員を対象）が適切に行われているか、問題が発生しそうな状況にある場合は、適時に修正させることも重要な役割である。スタートの判定に対しては、スタート動作のみを見るのではなく、どのような環境の中でスタート合図が行われているのかも把握した上で対応する事が必要である。

### 3 権限

トラック審判長は、CR18の規則により、以下の権限を有する。

#### (1) 順位の判定

レースの順位決定について、決勝審判員（写真判定員）が順位に疑義があり、順位を決定し得ない場合に限り判定する権限がある（CR18.3）。

特に写真判定装置を使用しない競技会の場合、決勝審判員の意見が一致しないか、多数決で決められない事態が起こることもあるので、その際は審判長の判定をもって最終決定とする。

#### (2) 競技者の失格

規則に違反した競技者または妨害行為を行った競技者を失格させる権限をもつ。

① スタート審判長（スタート審判長が任命されていなければトラック競技審判長）はスタート関連の判定に同意しなかった場合には、当該スタートに関するどんな事実についても決定する権限をもつ（CR18.3）。

② ほかの競技者を肘でついたり、走路をふさいだりしてじゃまする行為をしたと監察員から報告があった場合、その競技者（またはチーム）を失格させ、失格させた競技者を除いて再レースをさせる権限をもつ（TR17.2）。

再レースが不可能で、レーンに余裕がある場合には、審判長の権限で、不利益を被った競技者（またはチーム）を次のラウンドに進めることができる。

③ レーンで行うレースで、自分に割り当てられたレーンを走らなかつたと監察員から報告があった場合、その競技者を失格させる権限をもつ（CR18.2, TR17.3, TR17.4, TR17.5）。

#### (3) 警告と除外

不適切な行為をした競技者に警告を与えたり、当該競技会から除外したりする権限をもつ。また、競技に関連する場所で競技者以外の者が不適切な行為をしたり、規則違反した助力を行ったりした場合には、警告を与え除外することもできる。

警告はイエローカード、除外はレッドカードを示すことによって競技者に知らせる。

警告や除外は記録用紙に記入する（CR18.5）。

例 「2003年パリ世界陸上の100mの2次予選での対応」不正スタートによる失格に対してトラック上に仰向けに寝て抗議をしたため、レッドカードが出され除外させられた競技者がいた。

(4) レースの無効（再レース・救済）

WAでは比較的余裕をもって競技日程を組んでいる。何らかのアクシデントがあった場合、一人または複数の競技者で再レースを行い次ラウンドへの進出の機会を与えている。つまり参加する競技者（チーム）が、みな走り次のラウンドへ進むということである。原則として、全員が走るということで公平・公正性が担保されている。

例① 「スターターのミスによる再レース（第23回アジア選手権）」男子4×100mRで、「Set」の声が聞こえず、モルジブチームの第1走者が腰を上げていなかったにもかかわらず、スターターがピストルを撃ってしまった。これは「Fair Start（公正なスタート）」を保証できなかった審判側のミスであり、審判長はモルジブチーム単独の再レースを決定した。

例② 「妨害による再レース（2016年リオデジャネイロオリンピック）」女子4×100mR予選で、アメリカチームがバトンを落とし決勝進出できなかった。映像でアメリカチームの第2走者がブラジルチームの選手に接触されたことが原因で体勢を崩したことが判明した。アメリカチームの抗議を受けて審判長は、ブラジルチームを失格とし、アメリカチーム単独の再レースを決定した。単独で再レースを行ったアメリカチームが41秒77を記録し決勝に進出した。この結果、ランキング8番目だった中国チームは決勝進出を逃した。中国チームも抗議をしたが受け入れられなかった。

しかし国内の大会によっては日程的な制約があり再レースをすることで公平・公正性が保証されないこともある。上記のようなアクシデントがあった場合、審判長は可能な限り再レースを実施することを検討するべきである（TR17.2.2〔注意〕）。

(5) 主催者、審判員の不手際

主催者や審判員に不手際があり、再レースをしなければならない場合は、審判長の権限によって、再レースを行うことができる（CR18.2, CR18.7, TR8.4, TR17.2, TR20.7）。

- ① スターターまたはリコーラーが信号器を撃ち直したにもかかわらず、号砲が鳴らず、競技者はそのまま走りフィニッシュした場合。
  - ② 競技者がフィニッシュしたにもかかわらず、順位の判定が正しく行えなかった場合。
  - ③ ハードルが正しく配置されず、その確認を怠ったまま走らせたため、レースが不成立になってしまった場合。
  - ④ 組の編成が適切ではなく、変更した方が相当だと考えた場合。
- (6) 競技の中止命令（CR18.7〔国内〕, TR6.1, TR55.7, 駅伝競走規準5条）

競技者の生命・身体保護の観点から、競技の中止を命じることができる（レフリーストップ）。競技の中止を命じることができるのは審判長または主催者によって任命された医師のみであり、中止を命じられた競技者は、直ちに競技を中止しなければならない。

## 4 実施要領

### (1) 競技開始前

- ① プログラムに記載されている競技注意事項および申合せ事項（監督会議があった場合はそのときの決定事項）を確認し、競技運営が円滑に行われるように準備する。
- ② トラック競技に関係する審判員の出席状況を確認する。
- ③ 各審判員主任の任務を確認させるとともに、審判員の役割分担を徹底させる。
- ④ 競技場所と使用機器・器具の準備状況を点検し、落ち度のないように整えさせる。もし準備に支障をきたすようなことがあったら、ただちに総務、技術総務と連絡をとり、競技開始前に対応させる。
- ⑤ 混成競技が行われる競技会においては、事前に混成競技審判長と役割について十分打合せをしておくことが望ましい。競歩

競技についても同様である。

## (2) 競技中

### ① 審判長の位置

フィニッシュラインの外側で、そこから第1曲走路へ5mから10m程の地点に位置し、できれば監察員主任と机を並べるようにした方がよい。トラブルがあった場合は、適宜その場所を離れ、適切に処置した後、定位置に戻るようにする。

### ② 順位・記録の処理

- ・200m以下の種目については、風力の確認をする。
- ・監察員の黄旗が挙げた場合は、写真判定員に連絡し、順位・記録の決定を一時停止させる。監察員の報告を受け決定した後、すぐにその結果を連絡し処理させる。連絡方法は迅速に行うため、通信機器（インカム、トランシーバー等）を使用する。
- ・失格にした競技者がいた場合は、失格にした理由の資料を整えておく。口頭抗議もあり得るので、いつでも説明できるよう準備も必要である。またビデオ監察を設置したときは、その映像を参考にする。
- ・黄旗が挙げられない場合は、順位と記録の決定を写真判定員主任に委任する。

### ③ 中・長距離競走、競歩競技の着順

1,500m以上の種目の場合は、周回記録員とともに順位の確認を徹底させる。特に5,000m、10,000mの種目については、出場している競技者の各周におけるラップタイムの記入を確認し、周回遅れの競技者が出たときは、競技者にわかるように指示させる。

### ④ 新記録が生まれた場合

世界記録・日本記録が生まれた場合は、CR31（日本記録は〔国内〕CR37）に則り、作成された申請書に署名する。日本記録（オリンピック種目のみとする）が樹立された場合、ドーピング検査を24時間以内に受けさせる必要がある（医師：「競技会ドーピング検査（ICT）の手順」参照）。

## 5 その他の留意点

写真判定装置を使用する競技会が主流になっているので、それに対応した競技会運営が求められる。そのためには情報機器の活用が不可欠である。

審判長と関係部署間では

- 1 写真判定員との順位・記録の確認（失格者が出た場合の処理）
- 2 監察員からのレース中の情報
- 3 トラブルがあった時の総務（進行担当総務員）との連絡といった連携が考えられるので、情報機器を最大限活用する方法を検討し、スムーズな競技会運営に役立てることを考えておく

### 内側の線を踏んだ際の対応

#### 〈TR17.4.3〉

レーン割当のある曲走路で縁石や内側の線に触れた（踏んだ）場合、1回（1歩）だけでは失格とならないが、2回（2歩）以上触れた（踏んだ）場合は失格となる。

#### 〈個人種目で失格となる例〉

同一のレースで別の場所で1回ずつ2回（計2回）

同一種目の異なるラウンドで1回ずつ2回（計2回）

#### 〈リレー種目で失格となる例〉

同一選手が同一のレースで別の場所で1回ずつ2回（計2回）

別々の選手が同一のレースで別の場所で1回ずつ2回（計2回）

同一種目の異なるラウンドで1回ずつ2回（計2回）

- ・内側の線を越えて完全に隣のレーンに入ったら、1回であっても失格となる。
- ・内側の線を踏みながら隣のレーンに入った場合は「線に触れている」と考え、1回だけなら失格とはならない。
- ・内側の線を踏んだのは1回だけだが、他の選手（チーム）を妨害した場合は失格となる（TR17.2.2）。

#### 〈TR17.4.4〉



レーン割当のない曲走路で縁石（縁石下の白線）に触れたり縁石（縁石下の白線）の中に入った場合、1回（1歩）だけでは失格とならないが、2回（2歩）以上触れた（に入った）場合は失格となる。

#### 〈共通事項〉

- ・レーン侵害があった場合、記録と次のラウンドのスタートリストには「レーン侵害・1回目」の情報として、「L」を記載する（L：レーン侵害（TR17.4.3, TR17.4.4））。
- ・レーン侵害の繰越しルール（1回目は失格としないが、次に侵害したら失格）は、同一種目の次のラウンドに繰越すが、他の種目には繰越さない。例えば200m予選で1回目のレーン侵害をした競技者が、200mの準決勝で再度、レーン侵害をした場合は失格となる。また200m予選で1回目のレーン侵害をした競技者が、400m予選でもう一度レーン侵害をしても失格とならない。
- ・混成競技は同一種目で複数回、違反があれば失格となるが、他の種目には繰越さない。

## 男女混合レースの実施条件

5,000m以上の長距離レースや競歩で、男女を合計した参加申し込み者が少ない場合、競技実施時間の短縮を図って男女混合でレースを実施する場合がある。

これはあくまでも少人数（男女のいずれかが8名以内で男女の合計が30名以内の場合のみ）による男女別のレースを統合して、レース数を少なくする競技運営上の時間短縮策であり、男女共多数の出場者があって、それぞれを複数組に分けて実施する長距離記録会や男女別に分けたレースを別途設けている競技会では男女混合組を編成してはならない。

もしこれを犯して実施した場合はペースメイクを意図した助力違反とみなしてレース自体を無効とし、女子の記録のみならず男子の記録も公認しない。

# 写真判定員

## 1 システム

- (1) 写真判定システムは、本連盟承認のものでなければならない。
- (2) スターターの信号器によって自動的に計時装置が作動するまでの時間を**0.001**秒以下とする。
- (3) 写真判定システムは、フィニッシュラインの延長上に設置した垂直のスリットカメラを通してフィニッシュを連続的な画像とし記録しなければならない。

## 2 写真判定による時間

- (1) 10,000m(を含む)以下のレース時間は、**0.01**秒単位とし写真判定により計時する。最小単位が**0**でない場合は繰り上げる。
- (2) 10,000mを越えるトラックのレースでは**0.1**秒単位に繰り上げる。

## 3 CR31 世界記録と〔国内〕CR37 日本記録

写真判定システムで記録されるトラック競技の判定写真とゼロコントロールテストは、証拠資料としてWA、本連盟に提出しなければならない。

## 4 フィニッシュライン上のマーク

レーンラインとフィニッシュラインの交差部分のマーク(黒色)は、フィニッシュラインのスタートラインに近い方の端から**20mm**以内の大きさとする。

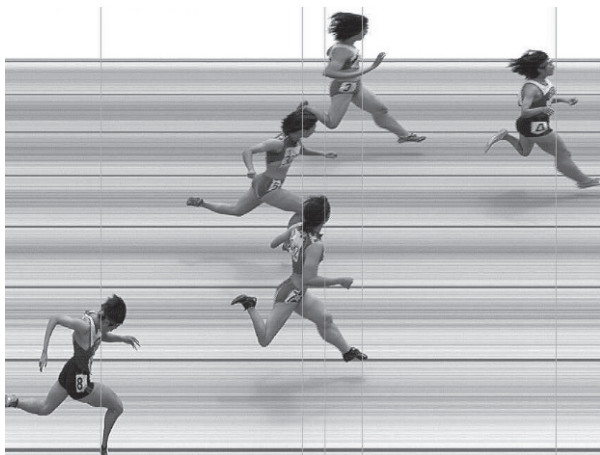


## 5 判定時の注意

- トルソー判定が正確であること

競技者の胴体(トルソー:頭,首,腕,脚,手,足を含まない部分)がフィニッシュラインのスタートラインに近い方の端の垂直面に到達した瞬間をとらえなければならない。

〔判定写真例〕

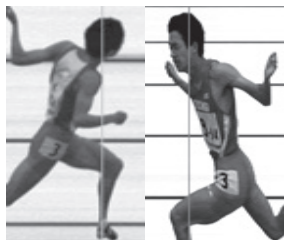


〔トルソー判定・インサイドカメラの活用〕



OUT

IN



OUT

IN





OUT

IN



OUT

IN



トルソーをよく理解し、判定線（カーソルライン）は胴体に重ねること。接しているのは到達ではない。また、身に着けている衣服が明らかに身体より離れている部分はトルソーではない。

## 6 システムの作動確認（ゼロコントロールテスト）TR19.19

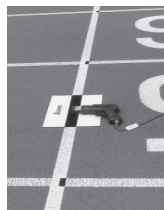
フィニッシュライン上にスタート信号器（ピストル）を置き、スタート信号器を発射（閃光を写真判定装置で捉える）したときの閃光と計時システムが信号器の合図によって自動的に動作した時間の差を測定する。

※すべてのスタート地点からの作動確認を行うことを推奨する。

この結果はプリントし、写真判定主任、スターター主任、トラック審判長、JTO（派遣されている場合）がそれぞれ確認のサインをして総務に提出する。

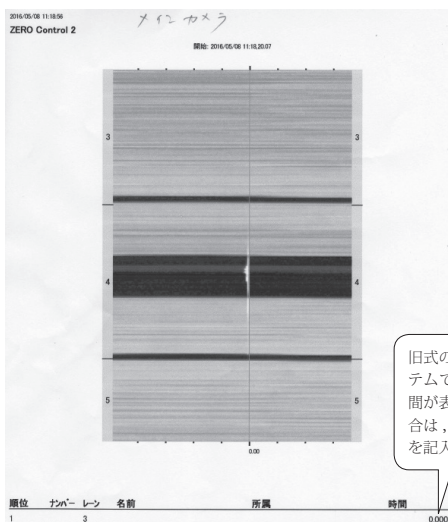
### 【確認方法】

- (1) フィニッシュラインにスタート信号器（ピストル）を置く。



- (2) 写真判定装置を手動モードで撮影スタートさせる。
- (3) スタート信号器を発射する。  
スタート信号により計時装置が0.000から開始される。
- (4) 写真に撮影された閃光またはフラッシュの光の部分をつるソーと同じように判定する。

判定点は、光り始めた位置にカーソルを合わせたときの時間表示を読みとる。時間表示が0.000秒から0.001秒の値であれば作動するまでの時間は規程どおりと確認できる。



旧式の写真判定システムで、自動的に時間が表示されない場合は、手書きで時間を記入すること。

- (5) 0.001秒を超える誤差が生じている場合、要因の一つとして、スタート信号器の発光遅れが考えられる。

対応策として、

- ① スタート信号器の親機本体の紙雷管挿入部分をフィニッシュライン上に設置し、発煙と発光の両方を撮影し確認する。
- ② スタート信号器接続のピストルは使わず、直結の全自動ピストルを使用する。この対応でも0.001秒を超える誤差がある場合には、写真判定の記録は規則に違反しており公認されないことになる。

## 7 TR21 同成績

タイムにより次のラウンドの出場者を決める場合、同記録者があるときは、写真判定員主任が0.001秒で記録された競技者の実時間を考慮しなければならない。

\* 0.001秒の判定でも同着が発生した場合、次ラウンドに進めるのはランキング8位までのため、必要により $+\alpha$ を減じる。

### すべての出発地点の妥当性を確認

従来のゼロコンは400m出発地点の確認であった。

100m, 200m, 1500m, 3000mSC各スタート地点の妥当性についても確認し記録の信頼性を確保する（各スタート地点までA, B2回線の配線がされていること。接続盤A, Bのジャンパ配線が必要となる）。

#### 【方法】

400mスタート地点以外の確認はピストルをグランド配線Bに接続し「写真判定装置は配線Aに接続したまま変更しない」状態で行う。

スタート地点の接続盤のスタート配線AとBをジャンパ配線（コネクタ接続）しゼロコントロールテストを行う。

#### 【内容】

フィニッシュ地点のスタート信号配線Bに入力されたスタート信号は、当該スタート位置でジャンパ接続されたスタート信号配線B→Aを經由し、写真判定装置に入力される。この方法でスタート（発光）と写真判定装置に入る信号との時間差（妥当性）が確認できる。

## 写真判定を見やすくする工夫

TR19.14 カメラが正しく設置されていることを確認するために、また、写真判定画像が読み取りやすいようにするために、レーンラインとフィニッシュラインの交差部分は適切なデザインで黒く塗る。そのようなデザインは当該交差部分のみに施し、フィニッシュラインのスタートラインに近い方の端から向こう側に20mm以内にとどめ、手前にはみ出してはならない。記録をより読み取りやすくするため、レーンラインとフィニッシュラインの交差部分の両側に同様の黒マークを置いてよい。

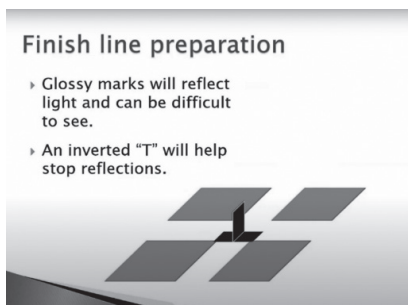


### ●判定画像の明瞭化

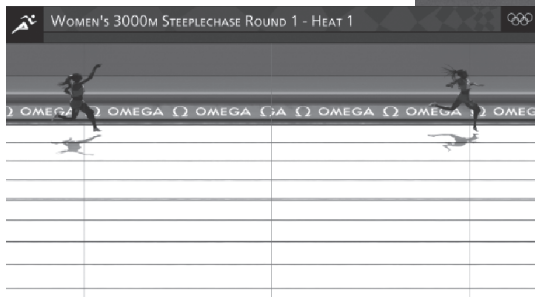
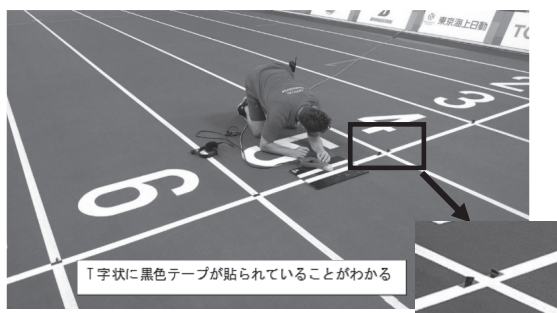
写真判定は、レンズに入る光量により画像鮮明度が変わるため、フィニッシュラインとレーンとの交点の状態は常に良好にして、判定に支障をきたさないようにしておく。

レーンとの交点に反射の少ない黒色のテープを図のように貼り付けると判定しやすい画像を得られる。

逆光時には、フィニッシュラインすべてが反射しフィニッシュラインとレーンの境目が見づらいことがあるので、交点には、T字のテープを貼り付けるとよい。



以下は東京2020OLYMPIC時のフィニッシュラインの様子  
と実際の判定写真



光の反射を抑え、ラインが画像上にくっきり浮かび上がる。  
4レーンと5レーンの間は交差部分にテープを貼らずに分けて2本貼ることで内側のレーンと外側のレーンが明確に区別でき、長距離レースで周回遅れなどもしっかり区別できる。





## 8 主任と判定員の任務配置

### (1) 任務

#### ① 主任の任務

- (a) 計時装置の機能について責任を負う。
- (b) 競技会の開始前に、主任は関係技術者と打合せ、装置について習熟する。また設置場所とテストについても監督する。  
※インサイドカメラや補助カメラを使用する場合、タイムに誤差が発生しないように設置すること。
- (c) 信号器の合図か承認されたスタート装置によって写真判定装置が正しく作動するかを、各レースの開始前に監督しなければならない。
- (d) 判定員と協業して競技者の順位と記録を決定する。

#### ② 判定員の任務

- (a) スターターからのスタート信号が正常に送られてくるか事前確認を行う。
- (b) 各スタート前に、スターターに写真判定システム準備完了を知らせる。
- (c) ピストルが鳴ってスタートしたときには必ず時計が動いたことを確認し、その結果を速やかにスターターに連絡する。
- (d) 時間、着順の判定、ナンバーの確認。
- (e) 情報処理機器とオンラインで運用している場合、準備ができていないか、判定データと入力されたデータが正しいかどうか確認を行う。
- (f) 着順と時間で次ラウンド進出者を決める場合、0.001秒の時間を考慮しなければならない。事前に入力データを記録・情報処理員と確認しておく。
- (g) 競技から目を離さず、途中棄権、周回遅れ、不正スタート、レッドカードによる失格などを把握しておく。
- (h) フィニッシュタイマー（トラックタイマー）を使用する場合、途中経過時間の表示、ラップタイム表示、記録速報を行う。

### (2) 審判員の配置

- ① 小規模大会 主任含め5人程度

- ② 大規模大会 主任含め6～7人（補助カメラを導入する）
- ③ フィニッシュタイマー（トラックタイマー）を使用する場合は事前に人数を考慮する。

## 9 問題事例

- (1) スタート信号が入らないときの連絡・対応遅れによりレースが終了（再レース）。連絡が少し遅れると100mではすぐに半分過ぎる。
- (2) 黄旗協議中に記録発表がされてしまった。黄旗が挙げた場合には、伝達する前に正式発表しないよう注意を促す。
- (3) 正式判定確定前に速報で1位を発表した。判定確定後1, 2位が逆転し、上訴される問題となった。
- (4) 長距離（オープンレーン）では周回間違いによるフィニッシュ映像なし（撮影忘れ）が発生する場合がある。

周回記録員との連携を密にして、フィニッシュの競技者を確実に把握する必要がある。方法として、周回記録員のところに連絡員を配置し、通信機器などを利用して間違いのない運営をする。

フィニッシュするかどうか確証が取れない場合、迷わず録画するべきである。
- (5) 1つのレーンに2人が写っており判定ミス（黄旗が上がらず）。
- (6) スタートリストと競技者のナンバーが違うため判定に支障（競技者係、出発係のミス）。
- (7) フィニッシュ前の競り合いに見入ってしまい、シャッターを押し忘れてしまった。
- (8) スタート時の競技者数を把握しておらず途中棄権者の確認ができず進行に支障がでた。

# 監察員

## 1 任務

監察員は、審判長の補佐として指示された地点に配置し、競技を厳正に監察する。競技中に競技者あるいは他の者によって TR54.2 以外の競技規則の不履行や違反を発見した時は、直ちに審判長にその出来事を書面で報告しなければならない（CR20）。

### (1) 主任

- ① 主任は、トラック審判長に代わってトラック競技の進行等に関して監察員に指示を与える。
- ② 監察員の監察地点を種目別に指示する。
- ③ 各監察地点の監察員と連絡をとり準備完了の合図と、規則違反の有無をトラック審判長に連絡する。
- ④ 監察員をとりまとめるとともに、トラック審判長より指示された事項等を周知徹底させる。

### (2) 班長

主任を補佐する。種目によっては監察区域を主任と区分して、その地域の監察員の指揮、指導にあたる。

### (3) 監察員

- ① 監察員は審判長の補佐で、最終の判定をする権限はもたない。
- ② いかなる規則違反も黄旗を挙げて、あるいは主催者が許可した信頼性のある方法で示す。
- ③ リレー競走のテイクオーバーゾーンを監察する。
- ④ 競技者が自分のレーン以外のところを走る、リレー競走でオーバーゾーンやテイクオーバーゾーンの外からの出発などを確認したときは、ただちにその違反が確認された走路の場所にマーカーを置く（マーカーが置けるときのみ）。また特別に、リレー競走における各ゾーンで出発係の任務の一部を委託されることもある。
- ⑤ スタートでは、リコーラーの補助的役割を担えるよう協力態勢をとる。具体的には、不正スタートがあった場合、黄旗を用いて競技者を制止する（ストッパー）。
- ⑥ 800m, 4×200mR, 4×400mR などでは第1曲走路の終わ

りでブレイクラインの通過を監察する。また、ブレイクラインマーカーの設置、撤去作業を行う。

- ⑦ 用器具係がハードルを配置後、当該ハードル種目のハードルの高さ、ハードル間の距離間隔を点検・確認する。競技が開始されたら、規則違反行為を監察するとともに、競技者が倒したハードルをフィニッシュ後に元の位置に正確に戻す。
- ⑧ ラップ旗、コーナートップ旗の設置・撤去を行う。

## 2 配置

### (1) 配置についての心構え

監察員の競技場内の行動は、原則的に競技の違反確認、競技の進行等に関することの任務以外は、次のように行動する。

- ① 2人以上で行動するときは団体行動をとる。特に入退場は同じ歩調と正しい姿勢をとり歩行する。
- ② 行進から配置完了までの時間を適当にとる。トラックの全地点に配置される場合の行進時間はあまり長くないようにする。
- ③ 主任は種目によって集合場所を指定し、監察員が競技開始5分前までに配置完了できるよう競技日程を見ながらあらかじめ計画する。
- ④ 監察員の行進時は椅子と黄旗（布地を丸めて）を右手に持ち、歩調を合せる。
- ⑤ 配置地点にいるときは原則として携帯椅子を用い、できるだけ観衆の目障りにならないよう十分な配慮が必要である。また、広告ボードのある大会では、そのことも十分に配慮する。しかし、競技中は臨機応変に監察に必要な地点に立って行動する心構えを忘れてはならない。なお退場のときは、すべて主任（またはあらかじめ指定された監察員）の合図を得て行動に移るようにする。
- ⑥ 行動はすべて遠い地点の監察員が先頭になって行う。ホームストレートに配置するときはフィールド側を行進する。曲走路およびバックストレート側での行進の経路はトラック外側とする。また退場時の行進は遠い配置地点の監察員から行動を起こ

して集合場所に戻る。

- ⑦ 不正スタートがあった場合に競技者の制止を担当する監察員（ストッパー）が、全競技者を安全かつ確実に制止ができるように、適切な距離を確保する（競技者を制止させるためトラック内に入るとは競技者と衝突する事があるので絶対に行わない）。

## (2) 配置の要領

監察員は、それぞれの種目に応じて、監察主任より指示された地点で競技を監察する。以下に示す配置図は1つの例であり、大会規模や監察員の体制などを考慮して検討すればよい。

### ・ 監察本部

フィニッシュライン付近の外側で、トラック審判長席と同じ場所に設置し、監察主任（1名）、監察記録作成担当者（1名）、本部黄旗担当者（1名）を基本構成とする（編成人数が少ない場合は人数を調整して構わない）。

各監察員からの報告の確認と取りまとめを行い、監察員記録用紙を作成し、トラック審判長に迅速に報告し、裁定を求める。

規則違反懸念のある動きを発見した監察員が発生場所で黄旗を挙げた際には、監察本部前で同時に黄旗を挙げる（発生場所と監察本部前で旗を挙げ、違反懸念行為が発生したことを明示する）。

### ・ ストッパー

➤ スタートラインよりおおよそ30m付近に配置する。なお、リコーラーの妨げとならないよう配置する。100mにおいては、70m付近のインフィールドに第2ストッパーを配置する場合がある。

また、100mH及び110mHは、3台目の監察員がストッパーとなる。

### ・ 100mの配置

➤ スタート側：スタートラインより後方10m付近における1-2

(2-3) レーンと5-6 (6-7) レーンの間

➤フィニッシュ側：3-4 (4-5) レーンの間の延長線上におけるトラックの外側及び7-8 (8-9) レーンの間の延長線上におけるトラックの外側

・200m及び400m (4×100mR含む)

➤曲走路中間地点：400mや4×100mRのスタート側については、ストッパーが兼ねる

➤曲走路出口付近：出口手前4レーンと5レーンの間および曲走路出口

・800m及び4×400mRにおけるブレイクライン

➤ブレイクライン後方10m付近の内側と外側

また、ブレイクラインマーカーを撤去した際は、ブレイクラインの延長線上の内側もしくは外側に置く

・800m以上のオープン種目

➤ホームストレートとバックストレートそれぞれの内側の縁石の延長線上のトラックの外側（第1～第4コーナーのそれぞれに配置する）なお、第1～第3コーナーに配置する監察員は、1500m、3000m・5000m、10000mにおいてストッパーを兼ねる場合が多い

➤ブロックスタート時の合流地点：合流地点前方10m付近に配置（前方から監察することで、違反者のビブスを確認しやすい）

・100mH及び110mH

➤スタート側：スタートラインより後方10m付近における1レーンと2レーンの間及び5レーンと6レーンの間

➤フィニッシュ側：3レーンと4レーン間の延長線上におけるトラックの外側及び7レーンと8 (9) レーン間の延長線上におけるトラックの外側

➤各ハードル：それぞれのハード毎に監察員を配置

偶数の台数：トラックの内側

奇数の台数：トラックの外側

➤練習時のストッパー：6台目と7台目に配置する監察員は、6台目で黄旗を水平に持ち選手を止める。

#### ・400mH

➤ストッパー：スタートラインから30m付近

➤フィニッシュ側：3レーンと4レーンの間の延長線上におけるトラックの外側及び7レーンと8(9)レーンの間の延長線上におけるトラックの外側

➤各ハードル：それぞれのハード毎に監察員を配置

なお、監察員の人員に十分な余剰がある場合、1台目から7台目あたりまでは、1レーンから8(9)レーンまでに設置されたハードルの距離が遠いため、内側に監察員を配置する場合があります。

#### ・3000mSC

➤ホームストレートとバックストレートそれぞれの内側の縁石の延長線上のトラックの外側(第1～第4コーナーのそれぞれに配置)

➤障害物：障害物の前方10m付近におけるトラックの外側に配置

➤水濠：水濠の前後5m～10m付近の内側

➤ラップ旗：1000mおよび2000m地点(外水濠と内水濠で場所が異なるため注意が必要)。なお、周回のカウントを誤らぬよう、専属で配置することが望ましい。

#### ・4×100mR

➤テイクオーバーゾーンの入口付近：内側外側のそれぞれ1名もしくは外側1名

➤テイクオーバーゾーンの出口付近：内側と外側それぞれ1名

・ 4 × 400mR

➤ 400m と 800m 以上の配置図の混合

1 走及び 2 走のセパレートまでは 400 m と同じ配置場所

2 走がブレイクライン通過した後はオープン種目と同じ配置場所

➤ ブレイクライン

2 走におけるブレイクライン通過時に配置（800m のブレイクラインと同様）

（1 走が通過後にブレイクラインマーカーを設置し，2 走が通過後撤去）

➤ テイクオーバーゾーン

入口の内側と外側にそれぞれ 1 名

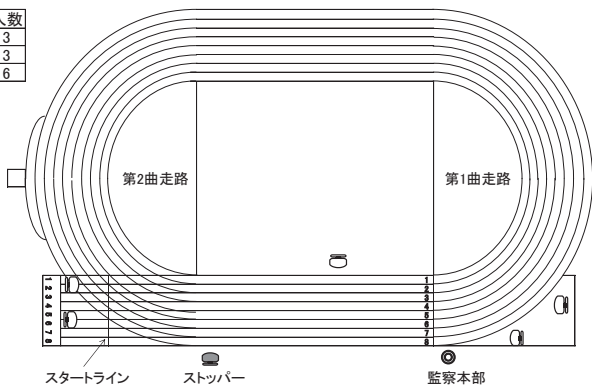
注 1) ・ 1 走から 2 走はセパレートに配置

注 2) ・ 2 走から 3 走及び 3 走から 4 走はオープンの配置



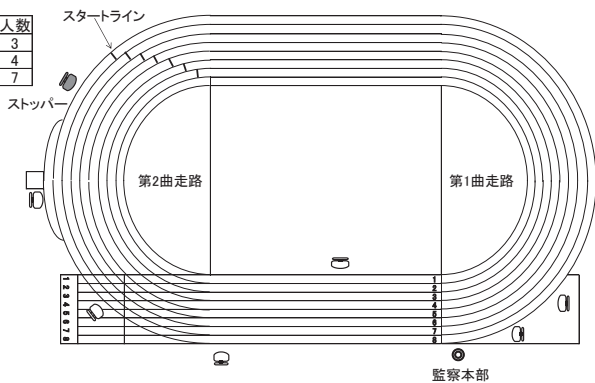
◆ 100m

班	人数
A	3
B	3
計	6



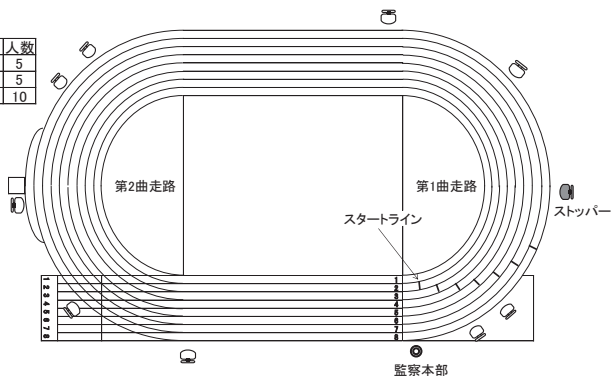
◆ 200m

班	人数
A	3
B	4
計	7



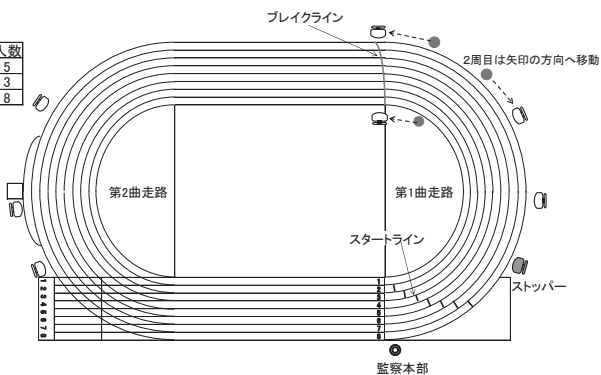
◆ 400m

班	人数
A	5
B	5
計	10



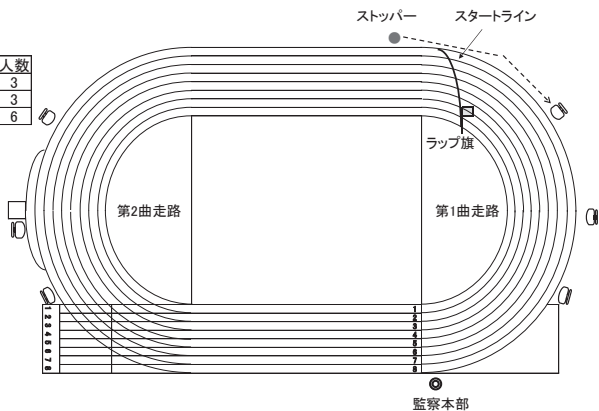
◆ 800m

班	人数
A	5
B	3
計	8



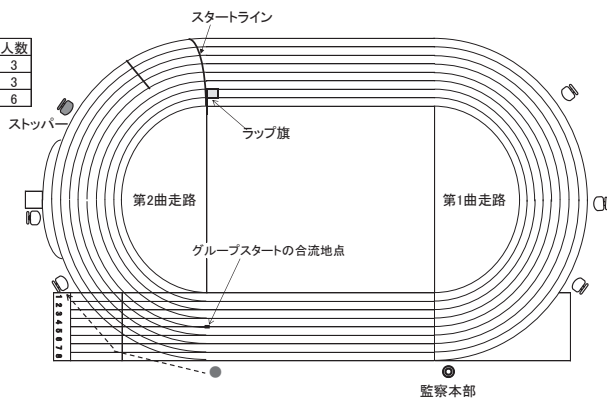
◆ 1500m

班	人数
A	3
B	3
計	6



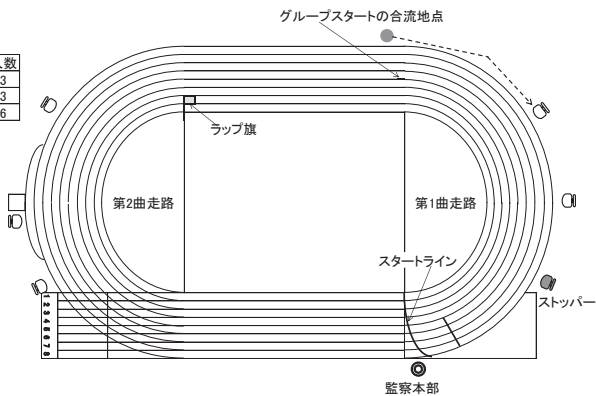
◆ 5000m

班	人数
A	3
B	3
計	6



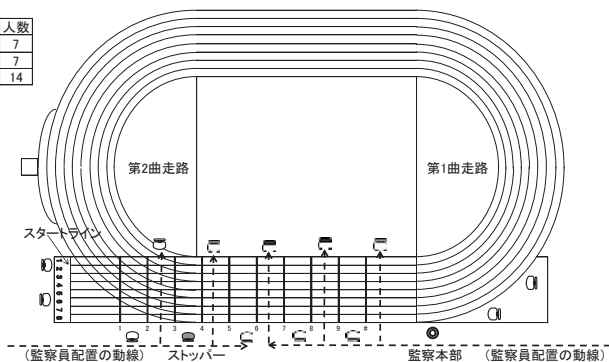
◆ 10000m

班	人数
A	3
B	3
計	6



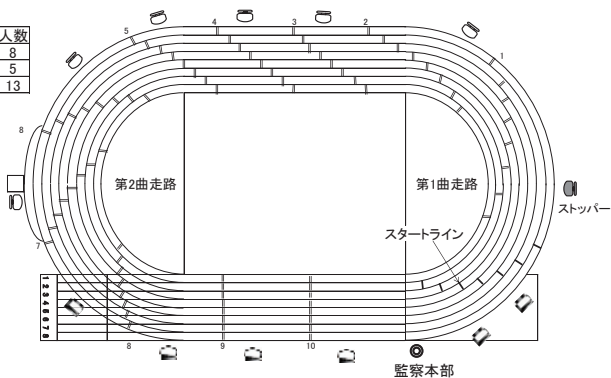
◆ 110mH (100mH)

班	人数
A	7
B	7
計	14



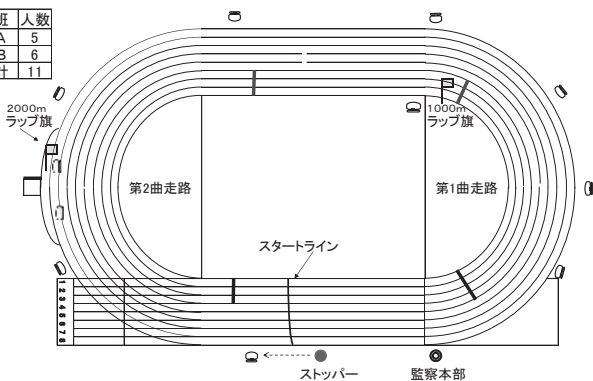
◆400mH

班	人数
A	8
B	5
計	13



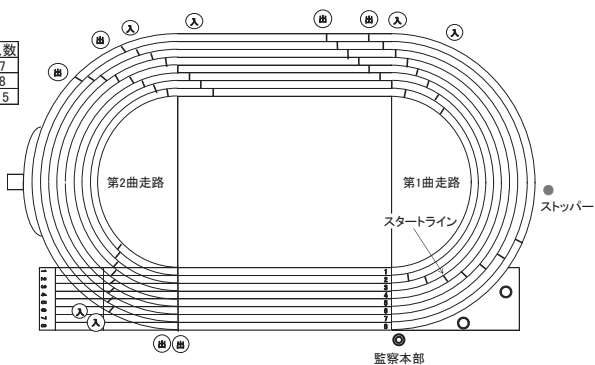
◆3000mSC

班	人数
A	5
B	6
計	11



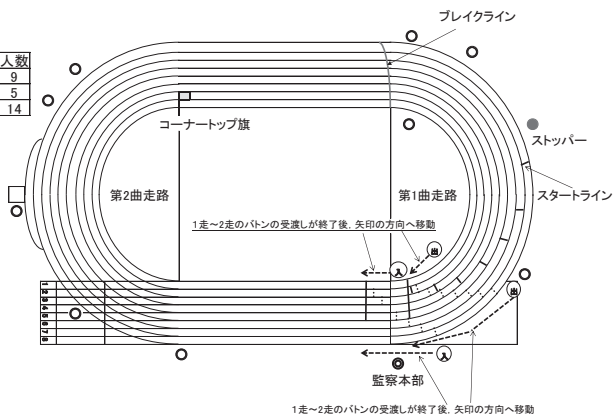
◆ 4 × 100mR

班	人数
A	7
B	8
計	15



◆ 4 × 400mR

班	人数
A	9
B	5
計	14



### 3 実施要領

監察員の連絡は主として競技進行中、あるいは開始直前直後等に行われるのが通常である。監察員はその任務の必然性からトラックの整備等に関して、また規則違反等の緊急事態に際して報告、連絡する。以下にその例を示す。

#### (1) 通信機器を使用する場合

審判長、監察主任、各曲走路の副主任の間で、通信機器を利用しながら進行することを推奨する。通信機器を利用する際は、その使用方法を熟知しておく（早口は厳禁。起こったことを正確にかつ迅速に伝える）。また、通信機器不具合が生じた場合の対応方法も競技開始前に使用者全員に周知しておく。

#### ▼競技開始前

- |        |   |
|--------|---|
| 5分前    | ・ 配置完了、各地点の点検確認。  |
| 3分前    | ・ 通信機器を持つ監察員は、担当する場所の準備が完了したことを監察本部に報告する。<br>・ 主任は、準備が完了したことを審判長に報告する。                        |
| 2分30秒前 | ・ 審判長の了解を得て、主任は出発係に近い位置にいる監察員に準備完了を連絡する。<br>・ それを受けて出発係に連絡。<br>・ 出発係は、スターターとアナウンサーに準備完了を連絡する。 |
| 1分前    | ・ 出場者紹介アナウンス終了とともにスターターはスタート合図をする。  |

#### ▼競技終了後

- ① 配置された監察員は各レース終了後、規則違反が監察された場合のみ黄旗を挙げる。違反の事実（内容）を通信機器で報告する。違反がなかったときは異常なしの報告をする。
- ② 主任は異常の有無の報告を受け、最初に口頭で審判長に報告する。
- ③ 規則違反があったときは、監察員記録用紙を作成し審判長に報告する。

#### (2) 通信機器を使用しない場合

#### ▼競技開始前

- ① トラックの不整備，用器具の配置の不正がある場合には，黄旗を挙げて表示する。
- ② 監察本部の黄旗担当者（主任等）は，黄旗が挙がっていないことを確認した後，審判長に引きつぐ。

#### ▼競技終了後

- ① 各所に配置されている監察員は，規則違反等があった場合のみ速やかに黄旗を挙げる。
  - ② 監察本部の黄旗担当者（主任等）は，競技のスタート地点から各所の旗を1つ1つ確認しながら，フィニッシュライン地点の旗まで確認する。旗が挙がっていなければ，規則違反がなかったことを審判長に報告し，1カ所でも黄旗が挙げられている場合は，自身の黄旗を挙げて規則違反があったことを監察主任と審判長に報告する。
- (3) 規則違反が発生したときの連絡，報告
- ① 違反行為を発見した監察員は違反発生場所をマークした上で，違反者のレーンナンバー及びビブスの報告を行う。レーンを使用する競走では，隣のレーンと見誤ってしまうことがあるので特に注意する。
  - ② 報告を受けたら，監察記録作成担当者は，監察員記録用紙を作成し，審判長に報告する。
  - ③ 違反後の処置は，その後の競技の流れに影響するので，迅速に行う。
  - ④ 同じ規則違反を複数の監察員で発見することは，審判長の判断の資料として重要なことである。この場合は，規則違反を発見した監察員はそれぞれが監察本部に報告し，監察員記録用紙等を作成し，審判長に報告する。
- (4) 監察記録用紙の記入
- 監察員記録用紙に必要個所の監察員位置（▲），違反場所（×）を示す。競走種目以下の欄は詳細に記入し班長，主任がサインをして審判長に提出する。
- (5) 発生しやすい規則違反の着眼点
- ① レーンを用いない競走の場合でのスタート時の身体接触。故



- 意に手を左右に大きく振って、前に出ようとする他の競技者を妨害する行為 (TR17.2)。
- ② 抜かれないようにトラックの外側に斜行する行為 (TR17.2)。
- ③ レーンを用いる競走の場合、レーンの侵害をする行為 (TR17.3)。
- ④ ハードルを越えるとき、足または脚がハードルの外側にはみ出して通った行為 (バーの高さより低い位置を通過した場合は失格となる) (TR22.6.1)。
- ⑤ 手や体で、いずれかのハードルを倒すか移動させる行為 (TR22.6.2)。
- ⑥ 直接間接を問わず、他の競技者に影響を与えたり、妨害するような行為や、他のレーンのハードルを倒したり移動させる行為 (TR22.6.3)。
- ⑦ 障害物競走では特に水濠の着地状況を監察する。競技経験が未熟な場合、インフィールドによるける競技者を見かける。また、足または脚が障害物の外側にはみ出して通った行為 (バーの高さより低い位置を通過した場合は、失格となる)。特設走路の入口、出口も厳重に監察する (TR23.7)。
- ⑧ リレー競走のテイクオーバーゾーンの入口のラインの幅は含まれるが、出口のラインの幅はその中に含まれない。すべてのバトンパスにおいて、テイクオーバーゾーンの外から走り出してはならない (TR24.19)。
- ⑨ バトンパスはテイクオーバーゾーン内で受け取る走者にバトンが触れた時点で始まり、受け取る走者の手の中に完全に渡り、唯一のバトン保持となった瞬間に成立する。あくまでもバトンの位置により判定する。競技者の身体や手足の位置ではない (TR24.7)。
- ⑩ バトンパスが始まってからバトンを落とした場合は前走者 (渡し手が) バトンを拾わなくてはならない。隣のレーンにバトンを落とした場合は、拾うために自分のレーンから離れてもよい。拾った後はただちに自分のレーンのテイクオーバーゾーン内のバトンを落とした位置に戻り継続する。ただし、他の競

技者を妨害したときは失格となる（TR24.6）。

- ⑪ バトンパスが開始されたがバトンが渡らず、次走者がゾーンの先に出てしまった場合は、バトンがテイクオーバーゾーン内に留まっていれば、次走者がゾーン内に戻ってバトンパスを完了させれば違反行為にはならない。

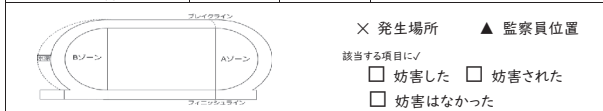
バトンパスが開始されたがバトンが渡らず、バトンがテイクオーバーゾーンの先に出てしまった場合は（バトンが次走者の手に触れたが完全に渡り切らないままテイクオーバーゾーンの先にバトンが出てしまった場合は）、前走者がバトンを持ったまま次走者と共にゾーン内に戻ってバトンパスを完了させたとしても）、違反行為となる。

バトンパスが開始されないままバトンがテイクオーバーゾーンの先に出てしまった場合は（バトンが次走者の手に触れない状態でテイクオーバーゾーンの先にバトンが出てしまった場合は）、前走者がバトンを持ったまま次走者と共にゾーン内に戻ってバトンパスを完了させれば、違反行為とはならない。

- ⑫ バトンの受け渡しの時に前走者が次走者を押すかたちになっても、必ずしも有利になるとは考えられず、その行為は助力とは見なされない。
- ⑬ バトンが破損したときは、その一片をもって受け渡しをしてもよい。いずれにしても留意点は、違反者の一連の行為とそれに伴って起こる他の競技者への影響を把握することである。
- ⑭ 800m および 4×400mR（第2走者）、4×200mR（第3走者）でのブレイクライン通過前のインコースへの侵入行為。
- ⑮ 4×400mRの第3走者および第4走者がバトンパスで走り出す際に、進行方向と逆方向への踏込み（テイクオーバーゾーン外からのスタート）。
- ⑯ 長距離種目のグループスタートにおいて、合流地点手前でのインコースへの侵入行為。

**監察員記録用紙 A** ※別紙にJAAF-19A②を印刷して使用のこと

競技会名			日時	/ / :	
種目		男・女	予選 / 準決 ( ) 組	決勝	
規則違反 / 途中棄権 ○をつける	レーンNo.	ヒプスNo.	リレー	走 →	走



該当項目に○、必要事項を記入

[ ] 周目    [ ] m    [ ] 台目    直走路    曲走路    内側(レーン左側)

[ ] 歩    [ ] カ所    [ ] 回    ライン    緑石    外側(レーン右側)

踏んだ    完全に内側に入った(ラインや緑石に足がかかっている)

倒した    移動させた    出た

監察員所見    ※詳細(ユニフォームの色なども記録しておくこと)

当該競技者の履歴 [ Y C / L ] [ 種目・ラウンド ]

違反内容	規則違反内容 (JAAF-19A②参照のこと)	規則No.
共 通	「On your marks」または「Set」の 谷図の後で、正当な理由もなく手を挙げた、立ち上がった 谷図に従わない、速やかに位置につかない	TR 16.5.1 TR 16.5.2
	谷図の後、音声・動作などで他の競技者を妨害した	TR 16.5.3
	不正スタート [ 単独種目 / 混成競技 (TR39.8.3) ]	TR 16.8
	レーンで行うレースで、割り当てられたレーン以外を走った。または TR17.4.3 を適用した後の2回目の違反	TR 17.3.1
	レーンで行わないレースで、曲走路区間の緑石・ライン上やその内側を踏んだ、走った、歩いた。 または TR17.4.4 を適用した後の2回目の違反	TR 17.3.2
	他者に押されて・妨害されて、自分のレーンの外、緑石・ライン上や内側に入った	TR 17.4.1
	レーンで行うレースの直走路で自分のレーン外を 障害物競走の水濠へ向かう迂回路の直線区間で走路外を レーンで行うレースの曲走路で自分のレーンの外側を 踏んだ、走った、歩いた	TR 17.4.2
	レーンで行うレースの曲走路で、レーン左側の白線や 走路の境界を示す 緑石または白線に1回(1歩)だけ触れた	TR 17.4.3
	レーンで行わないレースの曲走路で、走路の境界を示す緑石または白線を1回(1歩)だけ踏んだ、完全に越えた(内側に入った)	TR 17.4.4
	ブレイクライン手前でレーンを離れ内側レーンに入った	TR 17.5.3
ハ ッ ド ル	足・脚がハードルをはみ出てバーの高さより低い位置を通った	TR 22.6.1
	手や体、振り上げ脚の前側でハードルを [ 倒した / 移動させた ] 自分や他のレーンのハードルを [ 倒して / 移動させて ] 他の競技に影響を与えた・妨害した	TR 22.6.2 TR 22.6.3
障 害 物	水濠のある場所、水濠以外の地面を踏んだ(水濠の右側・左側を問わず)	TR 23.7.1
	足・脚が障害物をはみ出して障害物の高さより低い位置を通った	TR 23.7.2
リ レ ー	バトンパスがテイクオーバーゾーン内で完了しなかった(オーバーゾーン)	TR24.7
	テイクオーバーゾーンの外からスタートした	TR24.19
種 目	ブレイクライン手前でレーンを離れ内側レーンに入った	TR24.17
	コーナートップの順に並んだあと 入れ替わった	TR24.20

上記以外の該当する規則 (JAAF-19A②参照) [ T R / C R ]

報告者氏名    記入者自署

※以下、審判長記入欄

その他の判定資料(ビデオ映像(カメラNo.を明記)、SISなど)上記以外の判定の根拠となる規則No.など

裁定/結果	ヒプスNo.	失 格	失格としない	途中棄権	救 済
		Y C ( 警 告 )		YRC / RC (除外)	

審判長自署

※ YC = イエローカード YRC = 2度目のイエローカード RC = レッドカード L = TR17.4.3またはTR17.4.4の適用

(JAAF-19A.2022/3)

トラック競技

おもて面以外の違反事項例		規則 No.	
共通	競技者にあるまじき行為、下品な行為などがあった	CR18.5	
	他の競技者を妨害して前進を妨げた（詳細は所見欄に記入）	TR17.2.2	
	競技者が自らの意思でトラックから離脱した	TR17.6	
	リレー以外で走路上や走路脇にマークをつけた、またはマークの代わりに物を置いた。指導したが取り除かなかった	TR17.7	
	助 か	同一レースに参加していない者によってペースを得た 周回遅れか周回遅れになりそうな競技者が ペースメーカーとして競技をした	TR6.3.1
		転倒後、他の競技者から立ち上がることを 助けしてもらう以外に、前に進むための助けを得た	TR6.3.6
		審判長の承諾なしに、競技区域内で途中時間を知らされた	TR17.14
		主催者が設置した供給所以外で飲食物や水を受け取った 他の競技者に飲食物・水の受け渡しを繰り返した	TR17.15.4
	ハードル	割り当てられたレーン以外を走った	TR22.6
		すべてのハードルを越えなかった	TR22.6
障害物	すべての障害物と水濺を越えなかった	TR23.7	
リ レ イ 種 目	許可されている以外のマーカーを剥がすよう指導したが従わなかった	TR24.4	
	バトンを手でもち運ばなかった	TR24.5	
	手袋をはめた、何かを手に付けた	TR24.5	
	バトンバスの [ 完了前に後走者 / 完了後に前走者 ] が落としたバトンを持った	TR 24.6	
	バトンを拾い上げた後、落とした地点に戻らずにレースを再開した	TR 24.6	
	バトンを落とした際、または落としたバトンを拾う際、他のチームを妨害した	TR24.6	
	バトンを渡し終えた競技者が他のチームを妨害した	TR24.8	
	他のチームのバトンを使った、拾い上げた	TR24.9	
	落としたバトンを他のチームが拾い上げたことで、落としたチームが有利になった	TR24.9	
	コーナートップ順に並んだ次走者が、内側に移動する際に 他の走者を妨害した、押しつけた	TR 24.21	

- (6) 監察のポイント（直走路，曲走路共通）
- ① 侵害の起点と距離（歩数）。
  - ② レーンの内側か外側か。特に曲走路では内側の線を踏んだ際の，内側のレーンに入った（縁石の内側に入った）際の歩数（TR17.4.3， TR17.4.4）。
  - ③ 侵害するに至った状況（走路の不備，自分から他の競技者に押されて，他の侵害から避けようとしてなど）。
  - ④ もとのレーンに迅速に戻る努力が見られたか（マナーの問題）。

#### 4 留意事項

##### (1) フィールド競技との関連

- ① トラック競技もフィールド競技もプログラムに定められた時間通り実施する。自分の周りでどんな競技が行われ，どんな状況かを見極めると同時に進行係やマーシャルと連携し，競技進行に協力する。
- ② トラック競技の運営上支障があると予想されるやり投，走高跳等の競技については，トラックを横切って助走する競技者に注意を喚起しながら，競技を中断することなく継続して行うよう努力する。しかし，監察員が直接これらの競技者に指示することは好ましくない。競技者への指導は，マーシャルおよびフィールド競技審判員と事前に十分連携をとって行う。

##### (2) 競技中の心構え

- ① 競技者の動作をよく監察するために，1 地点を2 人の監察員で監察できるよう，あらかじめ連携をしておくべきである。
- ② 競技を見ないで競技者の行動を監察する。
- ③ 競技者のレーンナンバーやビブスを確認しながら，いつ，どこで，どうしたかについて，速やかに報告できるようにメモを取る。
- ④ レーンの侵害等は，できるだけ早くその地点をチェックする。競技が継続しているときは，邪魔にならないようにする。
- ⑤ 違反行為を確認したときは，レース終了後，違反を発見した監察員が，黄旗を挙げる。

- ⑥ 監察員間では私語をかわさない。
- ⑦ 配置直後には監察地点のトラック状況、器具の配置等を確認しておく。
- ⑧ 競技中は基本的に立って監察する。ただし、競技時間や天候の関係で座って監察することも構わない。
- ⑨ 椅子を用いるときは、黄旗はまるめておく。
- ⑩ 計測用に1m程度の巻尺を携行することをすすめる。
- ⑪ 監察員は合議してはいけない。ある1つの規則違反に対して、複数が確認した場合は、個別にその事実をありのままに報告する。

### 100mH, 110mH のスタート練習時の留意点 (ハードルの倒し方)

100mHや110mHの競技者がスターティングブロックを調整した後、スタート練習と共に何台かのハードルを跳び越えていく。この時の練習は3台までとし、4台目と5台目は倒しておくことを推奨する。国際大会では、競技者がリクエストして、1台(2台)のみ跳ぶこともある。

4台目だけ倒せばよいと考えがちだが、勢いのついた競技者はすぐには止まれないので5台目も倒しておくべきである。

また、ストッパー役の監察員が6台目のハードルの前に出て黄旗を提示したり、手を広げて制止するのは接触事故を引き起こす原因ともなるので、トラックの外側(あるいは内側との両方)で黄旗を示すだけに留める。

練習が終了したと思って、急いでハードルを起こし直そうとするのも、接触事故を招く原因の一つである。遅れてスタート練習をしている競技者がいないか、よく状況を確認しなければならない。

練習終了時にはスタート地点にいる出発係と連携を図り、ハードルを起こす合図を出してもらうようにするとよい。

## 監察員の特殊な任務

監察員の任務の一つとして、不正スタート（不適切行為）があった際にリコーラーの補助的役割を担い、ストッパー役を務めることになっている。これはレースのみならず、練習の段階から任務にあたる必要がある。トラック内に入って競技者を制止しようとするのは接触事故を引き起こす一番の要因であるのでトラックの外側（内側）で黄旗を示すだけに留める。

次に800mや4×400mRにおいては、ブレイクラインマーカーを設置・撤去する作業もある。その際注意したいことは、競技者の通過後直ちに作業に取り掛かるのではなく、直線部分でのレース状況を最後まで監察し、競技者が第二曲走路に入るのを見届けてから作業を開始する。それでも時間的には十分余裕がある。

さらに不正スタートが発生した場合、TR16.8の違反により当該競技者は失格となる。この事実を（配置されていれば）スタート審判長から無線でトラック審判長や記録・情報処理員に連絡するとともにスタート地点の監察員は監察主任へその旨を報告し、監察本部でもその事実を監察員記録用紙に記入し、トラック競技審判長を経由して記録・情報処理員に提出するのが迅速で確実な方法として実施している。

## 立てる旗とその意義

競技場内にはさまざまな場所に旗が立っている。いわゆるラップ旗（1,000m スプリット旗）や200m競走時に風力を計測するために先頭走者が直走路に入ったことを確認する旗、あるいは4×400mRの際に次走者の待機順を判断するために200mの第1レーンスタート地点内側に立てる（コーナートップ）旗等がある。

1,500m, 3,000m, 5,000mのスタート地点に立てる旗、あるいは3,000mSCの1,000m, 2,000m地点に立てる旗は基本的にアナウンサーに向けて通過タイムを報知してもらうための旗である。決して競技者に知らせるためではないのでアナウンス席から見やすい角度に設置することが大切である。

同様に、200mの風力計測を開始するタイミングをとるための旗（第4コーナーから直走路に入る地点のトラック内側）は風力計測員が、4×400mRの際に次走者の待機順を指示するための（コーナートップ）旗は出発係または監察員が、いずれもはっきり認識できるように置くことが必要である。

旗の有無は即、競技の有効・無効に関わってくるものではないが、その存在意義をきちんと把握して活用しなくてはならない。

なお、それぞれの旗はそれを必要とするレースの際にのみ立てることとし、使用しない時間帯は邪魔にならない場所に撤去する。



## 落としたバトンの扱い方

リレー競技において、競技者がバトンを落としてしまった場合どのようにすればよいだろうか？

従来は、「バトンパスが開始され、渡し手と受け手の両方に触れている状態ならばどちらが拾ってもかまわない」としていたが、2019年にWAに確認したところ、「バトンパスが終わるまでは、渡し手がバトンを拾わなくてはならない」ことがわかった。そして他のチームを妨害しないことや距離を利得することがないことを条件に、自分のレーンを離れてバトンを取りに行くことが許される。縁石の内側に転がった場合でも同じである。渡し手、受け手のいずれかにあるときに落とした場合は、もちろんその本人が取らなくてはならない。フィニッシュ直前に足がもつれて転倒し、バトンを離してしまった。バトンは転がりフィニッシュラインを通過したが、身体はまだフィニッシュラインに到達していない。このような場合、その競技者がフィニッシュラインを通過しただけではフィニッシュしたことにはならない。「バトンを持ち運んでいない」からである。転がったバトンを拾い上げ、転倒して離してしまった場所まで戻り、再度フィニッシュし直す必要がある。

# ビデオ監察審判長とビデオ記録

## ビデオ監察審判長

ビデオ記録は審判長やジュリーの判断をサポートする証拠を提供するためのものとして、2015年のIAAF総会において、ビデオ画像を競技中の判定に採用するという競技規則修改正が行われ、あわせてビデオ監察審判長等の必要な役員も任命されることになった（CR13, CR18.1）。ビデオ監察審判長は国内大会では任命されないため、ビデオ記録を採用した判定を行う際には、その役割はトラック審判長が担う。

現在、国内におけるビデオ記録は監察員の目を補うものとして、あくまで監察員の目が「主」、ビデオは「従」の位置づけにある。黄旗が挙がったり抗議があって審判長の要請があったとき、上訴があってジュリーが要請したとき等に映像を確認しているが、WA主催の競技会においては、ビデオ監察審判長のもと、ビデオ画像を「主」とした判定が行われている（WAウェブサイト「VIDEO RECORDING AND VIDEO REFEREE GUIDELINES」参照）。

## ビデオ記録

監察においてビデオ記録を判定に用いることは、大規模な国際大会に加え、可能な限りその他の競技会でも求められていることから（TR12ビデオ記録〔国際〕）、国内大会でも採用することを推奨する。

国内大会では以下のように対応する。

### (1) 録画と再生

複数のビデオカメラを用いて異なるアングルからレース全体を撮影することが必要で、「カメラ台数」「カメラ設置場所」「再生機能」がポイントになる。

- ・カメラ台数 多いほどよい
- ・カメラ設置場所 スタンド中段や上段
- ・再生機能 大画面ディスプレイ、スロー再生、画面拡大 等

### (2) カメラのネットワーク接続有無

ホームビデオカメラ等を使用して各カメラ単独で撮影する場合（スタンドアロン型）と、カメラがネットワークに接続され1か所で操作できるシステムを使用する場合（ネットワーク型）がある。

現時点では国内でのネットワーク型の利用は限定的で、一部の競技場には設備が整っているが、大規模大会でシステムを借りて使用することがほとんどである。

(3) ビデオ再生室・ビデオ監視室

撮影した映像を再生（確認）するための部屋を設ける。

① スタンドアロン型の場合

レース終了後に撮影した記録媒体（SDカード等）をビデオ再生室に持込んで映像を確認する。

② ネットワーク型の場合

各カメラの映像がリアルタイムでビデオ監視室に集約されているので、レース中でも映像の確認ができる。操作はシステム提供会社のオペレーターが行うことが多い。

(4) 判定に使用できるタイミング

① スタンドアロン型の場合

違反有無の発見は監察員の「目視」が優先されるので、抗議や上訴があり、審判長や総務員（ジュリー）からの確認要請がなければ、ビデオ映像を判定（確認）することはない。

② ネットワーク型の場合

ビデオ監視室に監察員を配置し、レース途中で違反を発見した場合は、他の監察員と同じようにレース直後までに違反発生の事実を監察本部に報告する。監察本部はその報告をもとに黄旗を挙げ、監察員記録用紙を作成する。

抗議や上訴があり、審判長や総務員（ジュリー）からの確認要請があった場合は、他の監察員が発見したところやリアルタイムでチェックできなかったところも含めて、再生して判定（確認）を行う。

(5) その他の映像

抗議や上訴の際には利用可能なあらゆる映像を考慮して判定を行うことから（TR8.3, TR8.8）、競技場の監視カメラ映像や大

規模大会でテレビ局の中継がある場合には、その映像も利用するとよい。また、違反行為がフィニッシュライン付近で発生した場合には、写真判定装置の映像も利用する。

(6) 注意すべき点

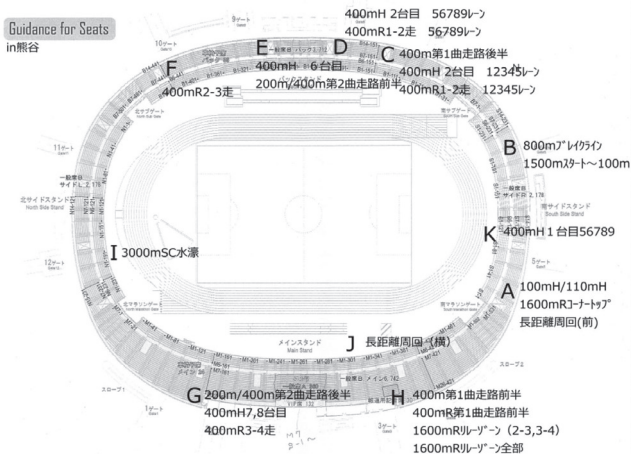
ビデオによる判定は万能ではない。複数のカメラで撮影しても死角は存在し、ネットワーク型でリアルタイムにチェックしても、長距離種目では先頭グループの動きに力点が置かれ、後方で発生した違反まで目が届かない（見逃す）ことがある。

監察員の「目視」情報とビデオの情報の両方をもとに判定を行うことが重要である。

(7) カメラ設置ポイント・撮影編成・留意点 等  
スタンドアロン型で撮影例は以下の通り。

以下、「カメラ設置ポイント」「撮影編成」「留意点」等の例を示す。

### カメラ設置ポイント例



### 撮影班編成例

9月2日(金)1日目

開始時刻	種目	ラウンド	人数	組一着+a	1班	2班	3班	4班	5班	6班
9:30	十種	100m	31	4						不正スタート
9:55	女子	10000mW	24	1	A 周回 (前方)					J 周回 (側方)
11:05	女子	4×100mR	予選 37	5-1+3	H 400mR 全	C 1-2走 12345	F 2-3走 全	G 3-4走 全	D 1-2走 56789	
11:30	男子	4×100mR	予選 54	6-1+2	H 400mR 全	C 1-2走 12345	F 2-3走 全	G 3-4走 全	D 1-2走 56789	
12:00	女子	1500m	予選 45	3-3+3					B スタート～100m	
12:25	男子	1500m	予選 43	3-3+3					B スタート～100m	
12:45	女子	400m	予選 33	4-1+4	H 1 入	C 1 後半	E 2 前半	G 2 後半		
13:05	男子	400m	予選 53	6-1+2	H 1 入	C 1 後半	E 2 前半	G 2 後半		
13:40	女子	100m	決勝 55	7-3+3						不正スタート
14:20	男子	100m	決勝 57	7-3+3						不正スタート
15:35	女子	1500m	決勝 12	1					B スタート～100m	
15:45	男子	1500m	決勝 12	1					B スタート～100m	
15:55	女子	100m	決勝 24	3-2+2						不正スタート
16:15	男子	100m	決勝 24	3-2+2						不正スタート
16:35	女子	400m	決勝 8	1	H 1 入	C 1 後半	E 2 前半	G 2 後半		
16:45	男子	400m	8	1	H 1 入	C 1 後半	E 2 前半	G 2 後半		
16:50	十種	400m	31	4	H 1 入	C 1 後半	E 2 前半	G 2 後半		
17:10	女子	10000m	予選 41	1	A 周回 (前方)					J 周回 (側方)
18:00	男子	10000m	予選 34	1	A 周回 (前方)					J 周回 (側方)

## 撮影ポイント・留意点の例

地点	場所(座席)	種目	撮影ポイント	カメラ	留意点
A		100mH/110mH	スタート～フィニッシュ	zwp	スタート地点にズームで合わせ徐々に引いてフィニッシュまで撮る
		4×400mR	コーナートップ・リレーゾーン	zwp	コーナートップにズームで合わせ徐々に引いてリレーゾーンまで撮る
		長距離	周回(前)	固定	周回板・タイマー・競技者(胸ビブス)が入るように撮る
B		800m/4×400m	ブレイクライン	固定	ブレイクライン前後 30m 位を固定して撮る
		1500m	スタート～100m	固定	スタート地点後方から、フィニッシュまで追いかけて撮る
C		400m	第1曲走路後半	固定	ライン上を走っていないか
		400mH	2台目 1～5レーン	固定	振り上げ脚・抜き足がハードルの外(下)から出していないか、ラインを踏んでいないか
		4×100m	1～2走りリレーゾーン出口 1～5レーン	固定	テイクオーバーゾーン
D		400mH	2台目 5～9レーン	固定	振り上げ脚・抜き足がハードルの外(下)から出していないか、ラインを踏んでいないか
		4×100m	1～2走りリレーゾーン出口 5～9レーン	固定	テイクオーバーゾーンなど
E		400mH	6台目(後方から)	固定	振り上げ脚・抜き足がハードルの外(下)から出していないか、ラインを踏んでいないか
		200m/400m	第2曲走路前半	固定	ライン上を走っていないか
F		4×100m	2～3走りリレーゾーン出口	固定	テイクオーバーゾーンなど
G		200m/400m	第2曲走路後半	固定	ライン上を走っていないか
		400mH	7台目(8台目)	固定	振り上げ脚・抜き足がハードルの外(下)から出していないか、ラインを踏んでいないか
		4×100m	3～4走りリレーゾーン出口	固定	テイクオーバーゾーンなど
H		400m/4×100m	第1曲走路前半	固定	ライン上を走っていないか
		4×100m	レース全部	zwp	スタートからフィニッシュまで撮影する
		4×400m	リレーゾーン(2,3,3,4)	固定	リレーゾーンの押し合いなどを撮る(2～3走り以降)
		4×400m	レース全部	zwp	少し引き気味でレースを全部撮影する(離れて来たらトップ集団を中心に)
		400mH	1台目1～5レーン	固定	振り上げ脚・抜き足がハードルの外(下)から出していないか、ラインを踏んでいないか
I		3000mSC	水濠	固定	水濠を越えた後にラインの内側に入っていないか
J		長距離	周回(側)	固定	周回板・タイマー・競技者(背ビブス)が入るように撮る
K		400mH	1台目5～9レーン (グラウンドレベル)	固定	振り上げ脚・抜き足がハードルの外(下)から出していないか、ラインを踏んでいないか

## ビデオ監察オペレーションルーム例



# スタートチーム

2016年度より、すべての公認競技会においては混成競技を除き「不正スタート」は1回で失格になった。

また、2020年度の修改正でスタートの判定基準がより明確になった。以下の4項「スタートの確認」と共にルールブックの確認をお願いします。

## スターター，リコーラー

### 1 スターターとしての認識

- (1) スターターと他審判員と違う点。  
競技者を失格させる権限を持っている。  
その権限は、審判長、競歩審判員主任とスターターである。
- (2) スタート合図をすることだけがスターターの役目ではない。  
競技者がベストコンディションでスタートができる環境作りを心がける。
- (3) 競技者にとって、スタートは1回1回が真剣勝負。  
フィールド競技は、それぞれの試技時間の中で競技者が開始するが、トラックのスタートは1回のみでスタートの合図はスターターにより行われる。
- (4) 主観による間違った判定の防止。  
スターターメンバー内での判定基準の共通認識による統一された、ぶれない判定をする。

### 2 スタートルールの変更点

- (1) すべての競技会で混成競技を除き、1回不正スタートで失格となる（2016年）。
- (2) 黄／黒カードは、混成競技での1回目の不正スタート時のみ使用となる（2016年）。
- (3) TR16.7について、判定基準をより明確に（注釈を追加）した（2017年）。
- (4) 注意として対処されていた号砲前の局所的な動きは、TR16.5

に基づいた不適切行為として警告の対象になることがあるとされた（2018年）。

### 3 不適切行為（TR16.5）の明確化

WAは TR16.5.1, TR16.5.2, TR16.5.3に見られるように、競技進行を遅らせる行為や他の競技者に迷惑をかける行為について、特に重大な違反行為と考えている。

- (1) 腰、大腿、膝等が一瞬動いた動作は警告対象とすることがある。スターターの判断によってなされるものであり、必ずイエローカードが出されるものではない。
- (2) 最終的にイエローカードを出すか出さないかは、スターターの意見を聞いた上で審判長が判断する。

### 4 スタートの確認（TR16.7）

#### (1) 不正スタートの定義

不正スタートとは以下のように定義される。

- (a) クラウチングスタートの場合、結果的にスターティングブロックのフットプレートから片足または両足が離れようとしている、あるいは地面から片手または両手が離れようとしているあらゆる動作
- (b) スタンディングスタートの場合、片足または両足が地面から離れようとする結果になるあらゆる動作。

もしスターターが信号器の発射音の前に、ある競技者が動き始めて止まらずにスタートの開始に結び付く動きを開始したと判断した場合も不正スタートと判断しなくてはならない。

[注釈] Setの後、最終のスタートの姿勢になってから号砲までの間に次の i) または ii) の動きを確認した場合、不正スタートとする。

- i) 静止する事なく動いたままスタートをした場合。
- ii) 手が地面から、あるいは足がスターティングブロックのフットプレートから離れた場合。

この注釈は、号砲前に体が動きだし、そのまま止まること



なくスタートに移行してしまった場合、号砲の瞬間まで手がグラウンドに足がスターティングブロックのフットプレートに触れていれば不正スタートではないという誤った解釈をしていたケースがあったことからの追記である。

「号砲前に体が動き出し、そのまま止まることなくスタートに移行」は即ち号砲よりも早く反応してスタートしているということであるので、不正スタートということになる。

## (2) スタンディングポジションでのスタート [注意] (ii)

立位でスタートする競技者の方がバランスを崩しやすい。偶発的に動いてしまったと考えられる場合、「ふらつき」と見なされ不正スタートの対象として扱われるべきではない。この場合、TR16.2.3に従い注意で対処する。同じ組で繰り返されるようであれば、不正スタートまたは懲戒手続きの適用を考慮することもできる。

スタート前に突いたり押されたりしてスタートラインの前に出てしまった競技者は、不正スタートとして罰せられるべきではない。そのような妨害を引き起こした競技者は、TR16.5の警告または失格処分の対象になる場合がある。

## (3) 混成競技でのスタート

混成競技においては、各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後不正スタートした競技者は、すべて失格とする。

## 5 スタート運営に関する注意事項

- (1) 「Set」後の静止の確認は確実に行う。特に予選での合図は確実に行うこと。
- (2) 立たせて注意するときは、当該競技者に対し出発係を通して確実に伝達する。
- (3) 不正スタートの告知は、スターターが直接スターターマイクを通じて「○レーン、不正スタートで失格です」と告知をする。それに合わせて出発係が当該競技者の前に立ち赤黒のカードを提示する（2019年変更）。
- (4) 不正スタート後の再スタートで、「Set」～「号砲」の合図が早くなる傾向があるので注意する。
- (5) 「On your marks」から「Set」までが長く、「Set」から「号砲」

が早くなる傾向があるので注意すること。特に、中学生の競技会では、待ちきれずに動きだそうとしたときに「Set」がかかるので、腰があがっても体の安定がとれない状態での早撃ちにより不正スタートとなる場合がある。

- (6) スタート時（特に「Set」の瞬間）にフィールド競技での声援や競技者の掛け声などが入ることがあるので、状況に応じてスタートを中止してやり直す事も考慮しておく。
- (7) スターター、リコーラーが位置に着くタイミングは、スタート練習が終わってレーンナンバー標識の前に競技者が揃ったとき。スターターは、残り2人目の紹介が始まった時に台の上に立つ。
- (8) 直線種目での内側リコーラーの待機位置は、スターターの横に座る。
- (9) 信号器は適正な位置に設置すること。特に400mでの設置に注意する。
- (10) 信号器設置後、ピストル接続コネクタは無造作にグラウンド上に放置しない。同様に、ピストルも接続したままで、長時間放置しない。
- (11) 使用しないスタート台の保管位置に注意を払う。特に400m用のスタート台は、ダッグアウト下などに移動し管理すること。
- (12) 400mでのスターターの立つ位置は、7レーンの位置にすること。8レーンの外側では1レーンが視角に入らない。
- (13) 猛暑日や雨の日にむやみにパラソルを立てないこと。突風によりパラソルが飛ばされると大変危険である。
- (14) スターターメンバー内で、事前に不正スタートや注意または警告を与える動作の判定基準について共通認識を行い、統一された判定を心掛ける。

## 6 スピーカーの管理について

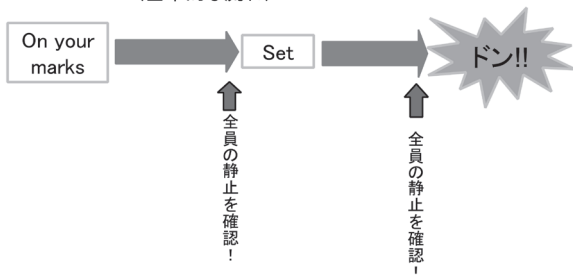
- (1)トラック競技での進行遅れの原因の多くはスピーカーの障害である事を認識し、管理の徹底と障害発生時の対応策について検討しておくことも必要である。
- (2) 使用しないときはスタート位置より撤去し、雨があたらない日陰の適切な場所に保管しておく。

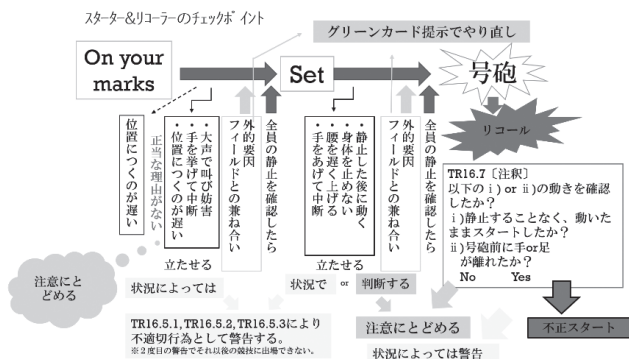
- (3) 電池は毎日交換する（マイク、ピストルも含む）。
- (4) 設置位置について（特に400m）、主要大会では3、4台目の位置にカメラエリアが設定される。このため、400mスタート時に通信障害等で不調となる可能性があるため、スタート前のテストの徹底とともに設置位置の調整をすること。特に4×400mRの場合はきちんと確認すること。
- (5) スピーカーが不調時の対処
  - ① スピーカーの付近に人がたくさんいないか確認する。
  - ② マイク・スピーカーの電池残量を確認し、交換する。  
5時間の連続使用で電波受発信能力が20%～30%低下する。
  - ③ スピーカーのアンテナが立っていることを確認する。
  - ④ 電波状態の悪いスピーカーは、できる限りマイクに近い位置に設置する。
  - ⑤ スピーカーをなるべく高い位置に設置する。
  - ⑥ マイク発信器をスピーカーの方向に向ける。
  - ⑦ 風が強い場合は、マイクを襟の内側に付けるなど工夫をする。

## 7 スタート合図のチェックポイント

### 合図のタイミング

スターター&リコーラーの為のチェックポイント  
(基本的な流れ)





## 8 合図のタイミング

- (1) 競技者が静止して正しいスタートの状態（上げた腰の静止）を確認してから撃つ。
- (2) 早く撃つと静止を確認できず、遅すぎれば待ちきれずにとび出してしまふ。
- (3) 早く位置についた競技者との公平性を考慮して、準備が遅くなると思われる競技者がいた場合は、立たせてスタートのやり直しをする。この場合、当該競技者には注意または警告が与えられる。
- (4) 「Set」の後、腰を遅く上げる競技者に対しても、同様に立たせてスタートのやり直しをする。当該競技者には注意または警告が与えられる。
- (5) 予選でのスタートは、特に競技者の動きをしっかりと確認してスタートの合図をすること。これにより以降のラウンドで競技者の掌握が確実にできるようになる。
- (6) スタート前に各競技者のスタート練習時の様子を観察しておくことも大切である。

## 9 リコールについて

- (1) 不正スタートを確認しても、リコールを撃たなければレースは開始される。
- (2) スターターがリコールを撃たなくても、リコーラーが不正と判

断したらリコールを撃つこと。

- (3) リコーラーによるリコールのタイミングが早すぎる時がある。スターターが見逃したときにリコールをすること。1発目で止まらない時に2発目を、それでも止まらないときに3発目を。むやみにリコールを撃たないように注意する。

## 10 腕の動き

- (1) 写真判定装置利用が主流となり、手動計時に対応した腕の動きについて、特に意識する必要がなくなっている。
- (2) 1回失格の適用により、競技者のスタート動作に変化が現れている。
- (3) 特に「Set」の後、腰が上がって静止するまでの動きが早く、すぐに静止して号砲を待つようになっている。
- (4) スターターもこの早い動きへの対応が必要である。競技者の静止を確認し、スターターは上方に向けて構えた信号器で号砲を鳴らすこと。

## 11 分担割当てでの留意点

- (1) 経験の浅い者は、中・長距離種目のスターターから担当させるとよい。このときは、経験豊富な者をリコーラーに配置すること。
- (2) 経験豊富な者がスターターの時は、リコーラーに未経験者を配置する（経験豊富な者のタイミングの取りかたなどを観察）。
- (3) スターターを割当てする時は、その前の種目には配置しない（最良のコンディションで任務にあたらせる）。
- (4) 1人のスターターに同種目（予選～決勝）を担当させる。

## 12 スタートインフォメーションシステム（以降 SISとする）使用時の注意点

- (1) SISで感知できない動きがある。緩やかな上下の動きや、小さな動きなど。
- (2) SISの機種により、信号器の動作時の振動などにて影響が出る場合も有るので、信号器の設置位置には注意が必要。
- (3) スターターが SISの波形をすぐに見て判定できるように、SIS

の本体またはサブモニターはスターターのすぐ横に設置するのが望ましい。



### 13 スターターの立つ位置

WAでは下記の基本的な考え方に基づいて位置を決めている。

「スターターとリコーラーは同じ目線で全競技者を監察する。  
何か起こった際には、この2人のコミュニケーションが重要になる」

「スターターは狭い視野で全競技者を監察できる位置で撃つ」

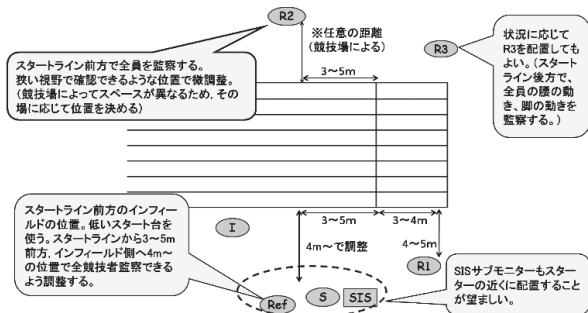
「スタート審判長は全競技者とスターター、リコーラーの動きを見守る」

#### 【凡例】

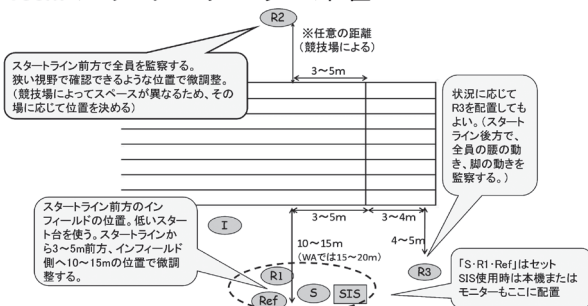
⑤ …スターター    R1 …リコーラー1 (2・3も同様)    I …インカム    Ref …スタート審判長

推奨位置として、WAのものを参考にしたものを示す。物理的環境（トラックのコーナーの半径やサークルなどの設置状況、フィールド競技との兼ね合い、ケーブル等の設置状況、スターターの身体的差異等）によって、より良い位置は変わってくる。この数値が独り歩きしないよう、それぞれの場面に応じて「狭い視野で全競技者をしっかりと監察できる位置」を検討し、適切な運用をお願いしたい。

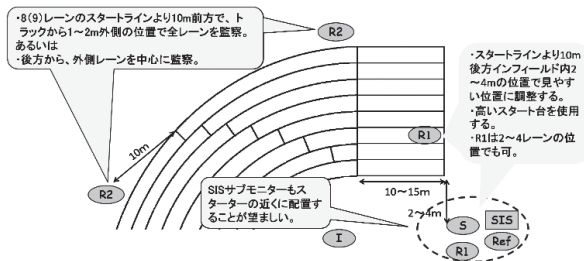
## 100mのスターター・リコーラーの位置



## 100mのスターター・リコーラーの位置 (WA)

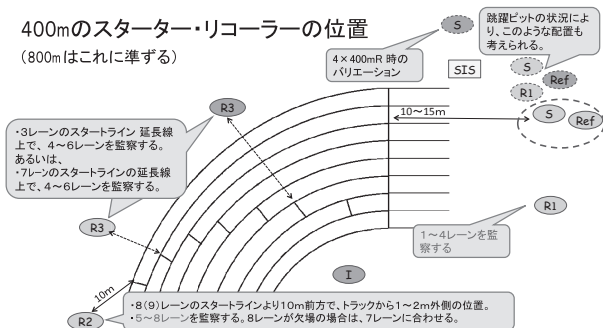


## 200mのスターター・リコーラーの位置

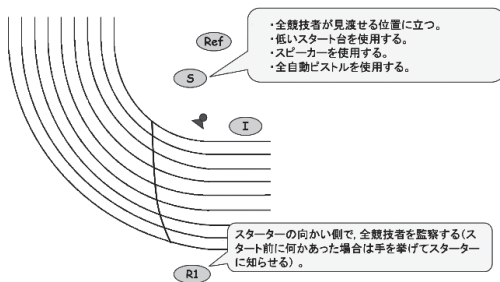


## 400mのスター・リコーラーの位置

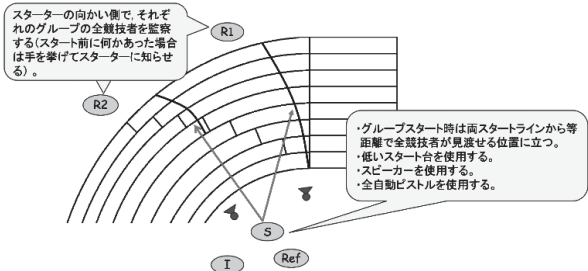
(800mはこれに準ずる)



## 中長距離種目のスター・リコーラーの位置



## グループスタート時のスター・リコーラーの位置





#### 14 信号器を設置する理由

- (1) 信号器は、スタート合図の号砲が時間差なく同時に聞こえるように研究開発された。
- (2) 推奨している400mでのスターターの立つ位置でピストルのみの場合、時間差が最大約0.2秒生じる。
- (3) フィニッシュラインでの写真判定による着順判定は、1/1000秒まで行われ、スタートの遅れは順位と記録にも大きく影響する。
- (4) 200mでは、2台設置を必須とし、本連盟主催競技会では、100mは2台、400mでは4台の信号器を設置すること。その他の競技会においても、この設置台数を推奨とする。

#### 号砲の到達時間 (秒)

レーン	400m	4×400mリレー
1	0.0285	0.0285
2	0.0481	0.0560
3	0.0677	0.0845
4	0.0873	0.1130
5	0.1069	0.1415
6	0.1265	0.1700
7	0.1461	0.1985
8	0.1657	0.2270

スターターの位置からスタートラインまでの距離は次のようになった。

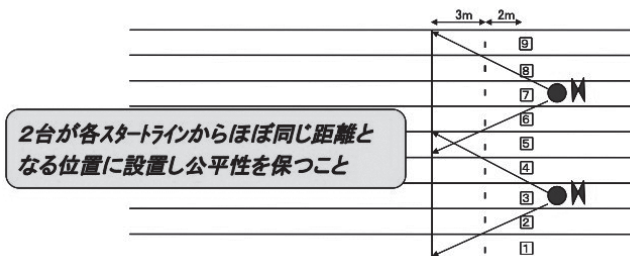
1) 400m  
1レーン: 12m20  
8レーン: 59m58 } 差=47m38

2) 4×400mリレー  
1レーン: 12m20  
8レーン: 78m00 } 差=65m80

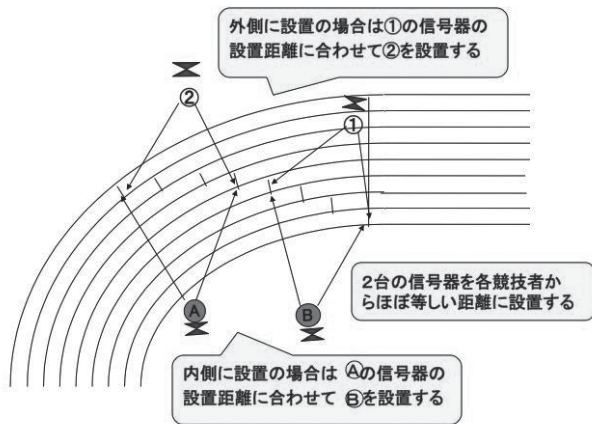
## 100mでの信号器の設置位置 (1台設置の場合)



## 100m (9レーントラック・2台設置の場合)

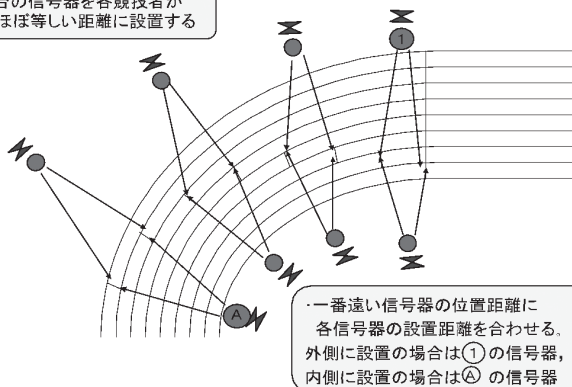


## 200mでの信号器の設置位置



## 400mでの信号器の設置位置

4台の信号器を各競技者からほぼ等しい距離に設置する



## 15 フィールドと同時進行時の注意

- (1) フィールド審判員と連携し試技とスタートが重ならないように調整する。
- (2) 投てき競技での掛け声、跳躍競技での手拍子などが「Set」の直前や直後に入り、スタートのやり直し（場合によっては打ち戻し）となる場合がある。状況を判断し、スタートを待つ、あるいは試技を待たせるようにする。
- (3) メインスタンド前で走幅跳、三段跳が同時進行しておりフィニッシュ側の砂場を使っている場合、100mスタートライン側の砂場で助走練習をしてスタートライン脇を走り抜ける競技者がいる。マーシャルと連携し、これらの競技者を確実に静止させるようにする。
- (4) フィールド競技の試技時間と、スタートにかかる時間を以下の表に示す。

フィールド競技			スタートにかかる時間			
残っている競技者数	走高跳	投てき 走幅跳・三段跳	予選（紹介なし）	準決・決勝		不正スタート等による再スタート
			ファンファーレ⇒ Set	紹介⇒ On your marks	On your marks ⇒ Set	
4人以上	1分	1分	約20～30秒	約1分	約20～30秒	約1分～1分30秒
2～3人	1分30秒	1分				
1人	3分	-				
連続試技※	2分	2分				

### (5) 同時進行時の調整事例

（100mとBゾーンホームストレート側での砲丸投が同時進行時）

#### ① 100mの予選で、ファンファーレが鳴った場合。

（ファンファーレ⇒セットまで約20～30秒）

- i 試技が開始されていなければ、試技を中断し100mをスタートさせる。
- ii 試技が開始されていれば、投てきが終わるまで100mのスタートを待つ。

#### ② 100mの準決勝または決勝で、ファンファーレが鳴った場合。

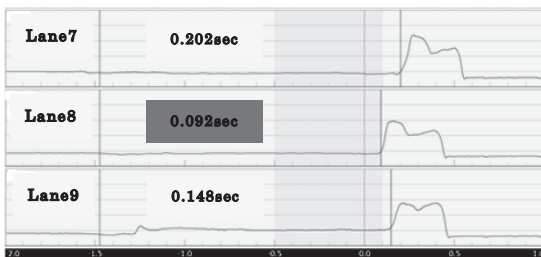
（出場者紹介 ⇒ On your marks まで約1分 ⇒ Set まで約20～30秒）

- i 試技を開始させ、終了したら一時中断し、100mをスタートさせる。
  - ii 100mの出場者紹介が5レーン以内であれば、次の試技を開始させる。終了したら一時中断し、100mをスタートさせる。
- ③ リコールでスタートのやり直しが発生したとき。  
中断している試技を直ちに開始。試技終了後100mをスタートさせる。

### スタートインフォメーションシステム(SIS)について

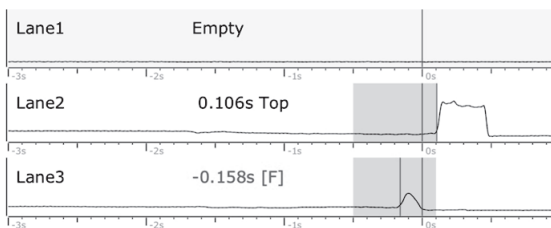
1. 構造：左右のフットプレートが後方に加える力の変化量を、フットプレートをセットした中央の支柱を介して、支柱後端に取り付けたセンサーによって検出する。
2. 装置からの出力データ：スタート信号を基準にした時間軸上でセンサーが感知する力の変化量を継続的に測定し、ある大きさ以上の力（加速度）の変化が観察された時点スタート動作の開始点（反応時間）とみなす。測定値は基本的には時系列数値であるが、図解析ソフトを連結させれば力曲線（波形図）を描くことができる。
3. オートリコール：測定した反応時間が0.100秒未満の場合には号砲前に体が動いたと判断して自動的にリコール信号を発生させ、さらにスターターとリコーラーにヘッドフォンを介して信号を送りリコールさせる。  
スタート動作の開始点がスタート信号よりも早かった場合（信号器が鳴る前にフットプレートを蹴った場合）も上記と同様のリコール措置を行うが、この時は－（マイナス記号）を付してスタート信号時までの時間を表示する。
4. 測定値の評価と不正スタートの裁定：測定された反応時間が0.100秒未満でリコール信号が発信されても、即不正スタートとは限らない。リアクションタイムとともに、波形図の確認をすること。以下の波形図を用いて不正スタートと不適切行為の例を示す。

### ①不正スタートの例



第7, 9レーンはリアクションタイム、波形ともに正常なスタートを示している。一方、第8レーンの波形もスタートしたことを示しているが、リアクションタイムが0.100秒未満であるので不正スタートと判定される。目視で確認できなくても不正スタートと判定する。

### ②不適切行為の例



第2レーンはリアクション、波形ともに正常なスタートを示している。一方、第3レーンはスタートに至らなかった波形でリアクションタイムは0.100秒未満である。号砲前に局所的な動きが確認され上記の波形を示している。この場合は不正スタートではなく、イエローカード（不適切行為）による警告として判定する。

※イエローカードによる警告とするか注意に留めるかどうかは、競技会や出場競技者のレベルに応じて一貫した判定をすること。

# 出発係

## 1 任務

- ① スターターが任務を十分に果たすことができるように、トラック競技の進行を円滑に進める進行役の任務を行う。
- ② 競技者を競技者係から引きつぎ、特にスターターとの連携を重視しアナウンサー、マーシャル、監察員との連携を取りながら競技の円滑な進行に努める。
- ③ 競技者が最良のコンディションでスタートできるように、競技者を定められた時間に、定められたレーンあるいはスタートラインに誘導する。
- ④ 定時にスタートできるように、スタートの準備やスタートラインに並ばせる方法、出場者の紹介の方法を競技会前に十分打合わせをして確認しておくこと。また、雨天時の対応についても確認しておくこと。

### (1) 主任

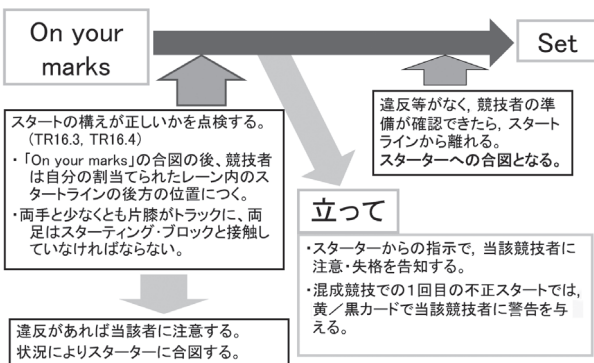
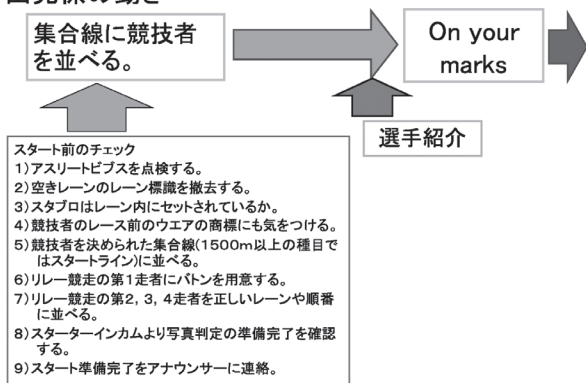
- ① 主任は、出発係を統括し CR23 に定められた任務の分担を決める。
- ② スタートさせるために必要な用器具が準備されているかどうかを点検する（スターティングブロックやレーンナンバー標識、バトンなど）。

### (2) 出発係

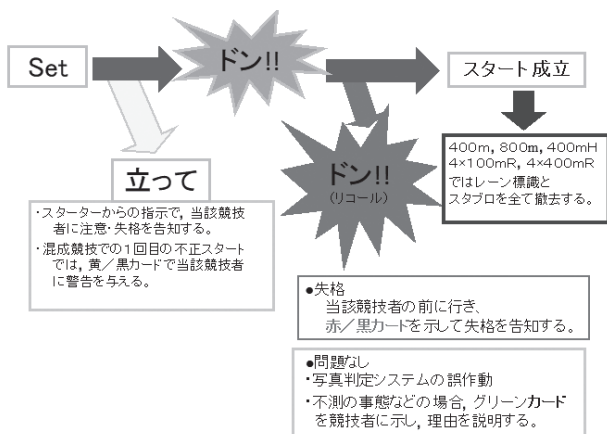
- ① 主任によって決められた任務を責任もって遂行する。
- ② アスリートビブスを点検する。
- ③ 競技者をスタートライン後方約3m（800mを超える種目ではスタートライン後方約1m）の所に並べる。
- ④ リレー競走の第1走者にバトンを用意する。
- ⑤ スタートの構えが正しいかを点検する。
- ⑥ スターターの指示により「注意」を伝えたり、不正スタートによる「赤／黒」（混成競技で1回目の不正スタートの場合は「黄／黒」）のカードを示したりする。
- ⑦ リレー競走の第2, 3, 4走者を正しいレーンや順番に並べる。

## 2 基本動作

### 出発系の動き







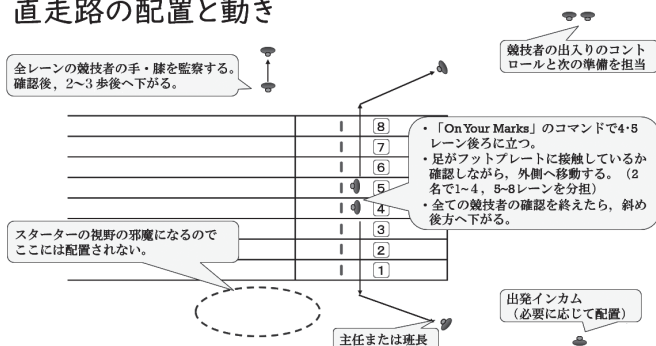
### 3 配置

出発係の配置は、原則としてつぎの図のようにするとよい。ただし、出発係の人数や競技会の性格によっては、適宜変えてもよい。いずれの場合でも、必要な人員以上を配置することはない。

#### ① 直走路での配置と動き

足がフットプレートに確実に接触しているかを確認するために、後方から確認する手順が追加された。

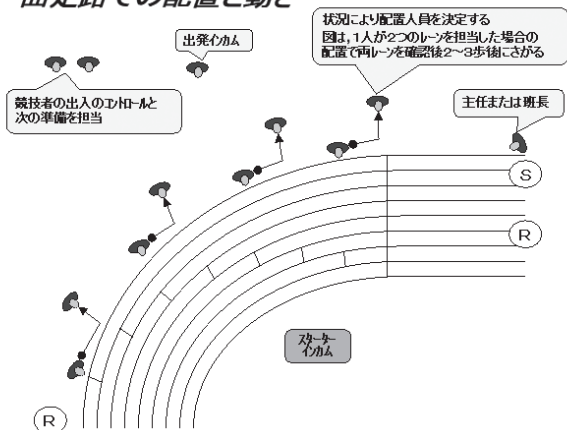
#### 直走路の配置と動き



## ② 曲走路での配置と動き

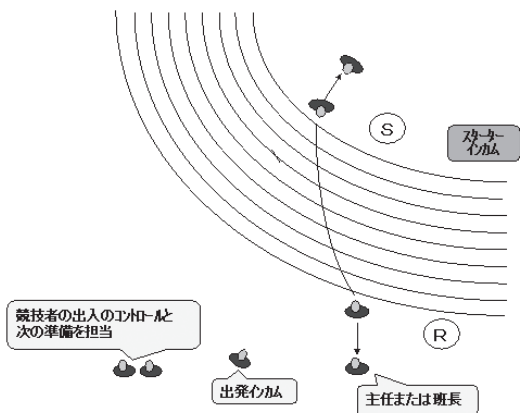
外側のレーンから内側のレーンに移動すると、スタートの姿勢の確認がより短時間でできる。手だけではなく、足がフットプレートに接触していることも確認をすること。

### 曲走路での配置と動き



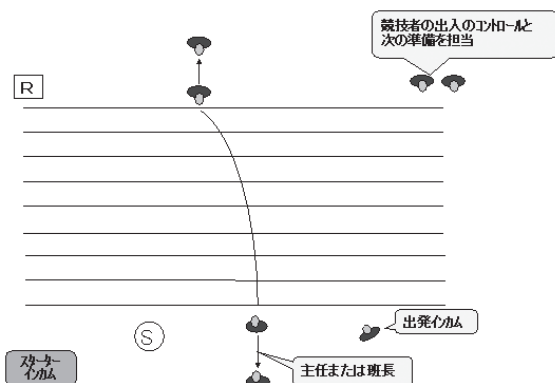
## ③ 1,500mでの配置と動き

### 1500mでの配置と動き



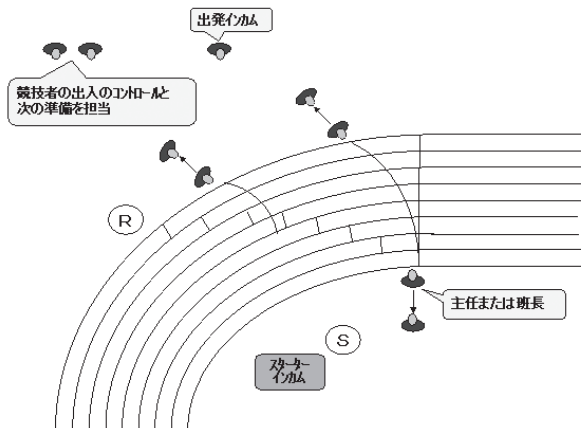
④ 3000mSCでの配置と動き

## 3000mSCでの配置と動き



⑤ 長距離種目での配置と動き

## 長距離種目での配置と動き



## 4 実施要領

### (1) 時間の流れと任務

#### ① 競技開始前

##### 15分前

競技者到着後、レーン順、アスリートビブス（腰ナンバー標識も含む）、氏名、ユニフォーム、スパイクを確認。

##### 5分前

スターティングブロック、レーンナンバー標識を設置。スターティングブロックをセットさせての試走（回数、ハードルでは台数を明確に指示する）、棄権者のレーンナンバー標識撤去。バトン、第2、3、4走者用のリレー用マーカの配布（1カ所のみ使用可）。

トラックを使用して行われるマラソン、競歩では、スタート5分前に脱衣を指示し3分前にスタートラインに並ばせる。

##### 3分前

1,500m～10,000mの競走（競歩）では、3分前に脱衣を指示、2分前にスタートラインに並ばせる。

##### 2分前

レーンを使用する競走の場合、2分前に脱衣を指示し、ただちにスタートライン後方約3mの所に並ばせる。

##### 1分30秒前

レーン順、ナンバー、氏名を再確認後、スタート準備完了をアナウンサーに連絡。

#### ② スタート時


(a) 「On your marks」の正しい手のつき方、姿勢であるかどうか、足がフットプレートに確実に接触しているかを確認する。確認後、うしろに大きく2～3歩下がる。この行為により、スターターは「確認の終了」と判断し、「Set」の声をかける。

(b) 手のつき方・姿勢が適切でない場合。

スタートの構えで手がスタートラインにかかった場合。400mまでの競走（4×100mR、4×400mRの第1走者を含む）では、両手と少なくとも片膝がトラックに接地していない、両足がスターティングブロックと接触していない、


800mを超える競走では手がトラックに接触している場合にはスターターに合図する。

### 不正スタートでの失格時(赤／黒カード)の対応

	8
	7
	6
	5
	4
	3
	2
	1

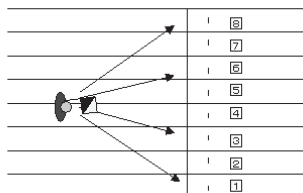
- ・失格となる競技者の前に立ち、赤／黒カードにより失格を宣言する。  
レーンナンバー標識上に赤カードをたてる。
- ・混成競技での2回目以降の不正スタートによる失格も同様の手順とする。

### 混成競技1回目の不正スタートでの (黄／黒カード)の対応

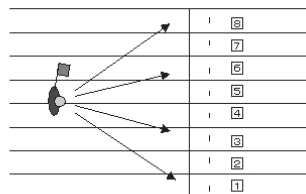
	8
	7
	6
	5
	4
	3
	2
	1

- ・混成競技での1回目の不正スタートでは、黄／黒カードにより当該競技者に告知し、レーンナンバー標識上にも黄カードをたてる。
- ・当該競技者への告知後、中央に立ち全競技者へ黄／黒カードにより告知する。

混成競技1回目の不正スタートでの  
全競技者への(黄/黒カード)の対応

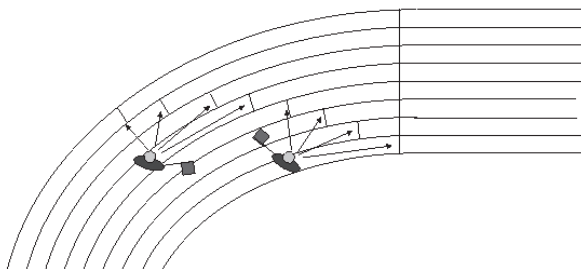


注意や不正スタート以外でのやり直しがあった場合  
(外的要因, スピーカー, 写真判定装置の不具合等)



中央に立ち全競技者へグリーンカードにより再スタート  
を伝達する。

## 曲走路での例



2名(場合によっては3名)が全競技者へグリーンカードにより伝達する。

### ③ スタート後

400m, 800m, 400mH, 4×100mR, 4×400mRにおいては、  
監察員の任務に支障をきたさないように注意し、スターティング  
ブロック、レーンナンバー標識を速やかに撤去する。

#### (2) 進行担当総務員・アナウンサーとの連絡方法

スタートラインに並ばせた後、出発係の1人は、スターターに  
準備完了の合図をすると同時に、トランシーバー、インカムを使っ  
て進行担当総務員・アナウンサーに準備完了の連絡をする。

#### (3) グループスタート時の並ばせ方

1,000m以上の種目で1回のレースに12人を超える競技者がい  
る場合、主催者または審判長から指示を受け、競技者の2/3を  
第1グループに、残りを第2グループに分けてスタートさせても  
よい (TR17.5.2)。

第1グループは通常のスタートラインに並び、第2グループは  
二つに分けられた外側のスタートラインに並ぶ。

## 5 「注意」や「警告」「不正スタート」が宣告された場合の対処行動

スターターが立たせて「注意」を与える場合、その理由をスターターに確認してから当該競技者（複数の場合もある）にその理由を口頭で伝えた後（グリーンカードは使用しない）、全競技者に対して不正スタートや警告ではないことを、グリーンカードを表示して伝達する。

スタート審判長からイエローカードが出され、競技者へ警告が与えられた場合には、出発係はグリーンカードを提示しない（TR16.5）。

不正スタートの場合は、スターターにその理由を確認し、スターターから当該競技者（複数の場合もある）への告知に合わせて、出発係は赤／黒カードを示す。その後、レーンナンバー標識に赤を表示する。

混成競技において、1回目の不正スタートの責任を有する競技者には黄／黒カードを示す。レーンナンバー標識に黄を表示する。全競技者に対しその後不正スタートした競技者はすべて失格になる趣旨で黄／黒カードを示す。

## 6 留意事項

### (1) 競技者に対する確認

#### ① 服装、靴などの点検

商標規制のある競技会では、競技者が着用するランニングシャツやパンツはTR5に示されている通りであるが、それ以外に衣類についている商標マークには、「競技会における広告および展示物に関する規程」があるので、それ以上の大きなマークをつけている競技者がいた場合にはテープ等を貼る。

#### ② アスリートビブスの確認

競技者のつけるアスリートビブスについては、TR5.7, TR5.8, TR5.9, TR5.10に示されているが、胸と背にはっきり見えるようにつけられているかを確認する。さらにアスリートビブスを切ったり、曲げたり、文字を隠したりしていないかを点検する。

①②については競技者係で最初に点検、確認しているが出発係においても再度行うようにする。



## (2) レーンナンバー標識の並べ方

レーンを使用する競走においては、次のような方法で並べる。

- ① レーンナンバー標識は、内側のレーンが1番になっているので順次2～8(9)レーンの順に並べる。
- ② スタートライン後方4～5mの地点に並べる。
- ③ 曲走路において、スターターがスタートラインの後方で合図するときは、並べ方に注意をする(②の位置の中央では競技者の足が見えない場合がある)。
- ④ 欠場者のレーンナンバー標識は撤去する。
- ⑤ 400mおよび800m競走またはリレー競走の場合はスタートした後、スターティングブロックとともにトラックの外側に撤去する。

## (3) スターティングブロックの扱い方

スターティングブロックは、400m(4×100mR, 4×400mRを含む)までの競走において使用する(TR16.3)。

- ① レーンナンバー標識を並べるときに、一緒にスタートラインに置くようにする。
- ② スターティングブロックの取付けは、競技者の責任で行うようにする。スターティングブロックのいかなる部分もスタートラインに重ねてはならないが、フレーム後部は他の競技者を妨害しない限り、外側レーンラインからはみ出しても良い(TR15.1)。
- ③ 全天候舗装競技場の場合は、スターティングブロックの前後をよく押さえつけないとずれてしまうことがあるので、必ず点検をすること。
- ④ スターティングブロックは主催者で準備することになっている(TR15)ので、個人のもち込みは許されていない。ただし、全天候舗装路でない競技場における競技会では、競技者は本連盟の規格に合ったものでかつ許可された場合、自分のスターティングブロックを使ってもよい(TR15.4〔国内〕)。

## (4) バトンの管理

- ① 出発係がバトンを準備することになっているので、スタート地点に運び、リレーの第1走者がレーンに並んだときに配布す

る。

競技終了後、第4走者から受け取る。

- ② バトンは、2組用意し、交代して使用するようにする。
- ③ バトンは、容易に認識できるような色とする。
- ④ バトンの規格については、TR24.5を参照。

## 7 その他

- ① スタート地点で必要な用器具（スターティングブロックやレーンナンバー標識など）は、用器具係が準備するが、出発係は競技開始前に点検する義務がある。
- ② 全天候舗装競技場で行うリレー競走で使用するマーカー（テープなど）は「本連盟が主催、共催する競技会では、マーカーは主催者が用意する」(TR24.4〔国内])と記載されているが、競技者に直接手渡すのは出発係であるので、準備を忘れないようにする。

### 参考 WAの考え方

WAでは出発係の任務はスタートに関することのみ限定され、スターターとともに活動するスタートチームの一員として定められている。リレー競走における第2走者以降の管理やリレー競走で使用するマーカーの配布は監察員の任務とされている。

## 共通認識事項





号砲前の局所的な動き等に対する口頭による注意は、2018年より警告の対象となる場合もある、となった。

# 1 「注意」や「警告」「不正スタート」(赤／黒カード) が与えられる場合の対処行動実際例

## 単独種目での注意・警告・失格の手順例






注意や警告時には、アナウンサーと連携してその理由を観衆に知らせる事も必要。

レーン									失格			摘要
1	2	3	4	5	6	7	8	9	レーン	理由	時間	
				1C								1C:ピク 2F:号砲直前に飛び出す 3C:号砲直前に動く。(同じ行為を繰り返したという事で)審判長判断でイエローカードで警告。No.203の競技者
							2F		8	2F	10:16	
				3YC								

- 1C=5レーンの競技者に注意  
状況によってはイエローカードによる警告もあり得る。  
⇒ 全競技者へ  (グリーン)
- 2F=8レーンが不正スタートで失格  
⇒   (赤/黒) 8
- 3YC=同じ行為を繰り返したということで  
審判長判断にて警告を宣言  
⇒  【重要】この後グリーンカードは提示しない  
編務(及び他の審判長)へ203に警告を与えたことを連絡。  
(イエロー)

## 混成競技での注意・失格の手順例

レーン									失格			摘要
1	2	3	4	5	6	7	8	9	レーン	理由	時間	
							1F					1F:号砲直前に飛び出す(10:16) ※setの合図と歓声が重なる 全競技者にグリーンカード提示 2F:号砲直前に飛び出す(10:18)
※												
							2F		7	2F	10:18	

- 1F=8レーンが1回目の不正スタートで警告  
1回目の不正スタートとして全員に警告  
⇒   (赤/黒) 8
- ※=set合図と歓声が重なったのでやり直し。  
⇒ 全競技者へ  (グリーン)
- 2F=7レーンが2回目の不正スタートで失格  
⇒   (赤/黒) 7

注意：以下の状況の場合はグリーンカードで、不正スタートではないことを競技者に告知する。

- 注意が与えられたり、不正スタート以外の理由(写真判定装置が作動しなかった等)による再スタートのとき。
- 場内の歓声や、スピーカーの不具合等で立たせてスタートをやり直すとき。
- 多くの競技者が同じ様な行為を行ったときや、やり直しの原因を作った競技者が特定できないとき。

## 2 スタートで警告（イエローカード）が与えられる場合の対処

スタート時における不適切行為（TR16.5）が発生した場合、

1回目は警告（イエローカード）が、2回目の警告による失格（除外：レッドカード）がスタート審判長または権限を委譲された審判員から示される。これは単独種目のみならず、混成競技における個々の種目においても適用される。また、失格の対象はそのレースだけに止まらず、その競技会における以後の他のエントリーしているすべての種目から除外されることを意味する。

## 3 アナウンサーチームとの連携（分かりやすい競技会を目指して）

スタートをやり直す時、その理由が観衆に分かる言葉で伝えることが重要である。そのためには、タイミングよくスタートチームとアナウンサーが連絡・連携する体制づくりが必要である。

## 4 スタート記録表の作成について

不正スタートの判定に対し状況説明を必要とする場合や、度重なる「注意」に対応する「警告」も視野に入れ、不正スタートや注意の発生状況を記録しておくことが必要である。不正スタートによる失格や注意、不適切行為（TR16.5）による警告（イエローカード）を与えた場合、スタート記録用紙を使用し記録しておくことが必要である。これは、従来使用していたスタート記録用紙に、失格になった理由、時刻を記入できるように改訂したものである（一部表示省略）。該当する競技者に注意を与えたり、不正スタートや警告に値する行為を行った場合、各レーン番号の下に注意であれば（C：Caution）、不正スタートであれば「F：False Start」、不適切行為（警告）であれば1回目「YC」2回目「YRC」のように略号で記録していく。そして失格が宣告された時には、失格の項に、そのレーンナンバーと失格した際の理由、発生時刻を記入していく。そのレース全体を通して、注意や警告、不正スタートが発生した順番を明らかにするために、CやYC、Fの記号の前に、1C、2YC、3F、4Cのように発生順に番号を振っていくと全体の流れが容易に把握できる。



となる。

この時、観客に対して場内のアナウンスを通して説明することが重要で、事前に①～⑤の内容を記したカードを持ち合い、「○レーン②番」と連絡を入れたり、不正スタートがあった場合は「○レーン不正スタート」と連絡すると良い。アナウンサーはそれを受け「○レーン不正スタートと判定されました」とコメントを入れることが必要である。

—混成種目：不正スタート2回目以降誰でも失格—

- (3) Bが不正スタート→全員に対し黄/黒カードを示す。Bのレーンナンバー標識に黄を立てる。

その後、Cが不正スタート→Cに対し赤/黒カードを示して失格を宣言。レーンナンバー標識に赤を立てる。

(参考 コラム「スタート時の警告内容アナウンス」)

## 雨天時におけるリレー用マーカの工夫

通常リレー用のマーカとして主催者が用意するのはテーピングに使用するホワイトテープが多いが、雨天の場合にはトラック面に糊がつかないうえにトラック面にも吸着しにくいといったことが起こる。

このような場合には更紙やちり紙など吸水性に富んだ紙を利用するとよい。これらの紙がすぐに用意できない場合にはコピー用紙などを規則に沿った大きさ（最大50mm×400mm）に切り、配布することで風雨が強い場合でも、水分の重みで飛びにくく、好評を得ているのでお薦めである。

また、ある陸協ではフィールド競技に使用する区画線（ビニール製のテープ）を400mm以内の長さに切って利用している。これも重さがあるため風で飛ばすことも無くお薦めできる方法である。

# 周回記録員

## 1 任務

- ① 800m以上の競走では最終回に鐘を鳴らし、1,500mを超える競走では各走者の走り終わった回数を複数の周回記録員が記録する。
- ② 周回記録員主任および若干名の専任者が必要である。
- ③ トラック競技審判長および決勝審判員、計時員、写真判定員との相互連携が重要である。

### (1) 主任

- ① 各審判員の任務分担を決め、正確に任務を遂行できるように総合的に管理する。
- ② 記録結果を掌握するとともに、競技者に的確な指示ができる体制をつくる。
- ③ 審判長を補佐する。

### (2) 周回記録員

- ① 各競技者の走り終わった回数を記録する。
- ② 5,000m以上の競走および競歩競技では、割り当てられた競技者の各周回の時間を記録する。
- ③ 先頭競技者の残り周回を表示する。
- ④ 最終回は鐘を鳴らして各競技者に合図する。

## 2 配置

### (1) 編成

- ① 800m, 1,500m  
周回掲示板係（周回板操作、最終の鐘を鳴らす）1人
- ② 3,000m, 3,000mSC  
周回掲示板係 1人  
周回記録係（各競技者の通過を競技者のナンバーで記録する）2人
- ③ 5,000m, 10,000m  
周回掲示板係 1人  
周回記録係 8人～10人

周回記録係のうち、2人は各周回の通過競技者のナンバーを記入する。他の周回記録係は、それぞれ競走では4人、競歩では6人以内の競技者があらかじめ割り当てられ、その競技者の通過時間を秒単位で記録する。

計時員（各競技者の通過時間を周回記録員に報告する）1人  
計時員は、競技者のフィニッシュライン通過の時間を秒単位で読みあげる。

#### ④ トラックを使用する道路競技

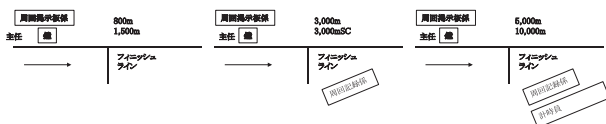
1周以上トラックを回ってから場外に出る道路競技（駅伝、マラソン、競歩など）は周回掲示板係1人

周回記録員が少ない場合の処置については、トラック競技審判長の指示により、トラック競技審判員の中から周回記録員を行うときには周回記録員主任の指揮下に入る。

この周回記録では、ICチップなどを使用したコンピューター化したシステムを使用してもよい。

### (2) 配置

各種目別に図のように配置する。



## 3 実施要領

### (1) 周回掲示板操作の要領

① 周回掲示板の位置は、競技場の規模、設計等によって多少の差はあるが、原則としてフィニッシュラインの手前3～4m、トラックから1mぐらいのフィールド内に位置する。

② スタートする前に掲示する周回掲示板の回数（1周400mの場合）

800m …2      1,500m …4      3,000m …8

5,000m …13      10,000m …25

3,000mSC…8（1周400mトラックで水濠が外にある場合）

③ トラックからスタートする道路競技（駅伝、マラソン、競歩



など)についても、スタート後トラックを1周以上回る場合には、これに準じて回数を掲示する。

- ④ 各種目とも先頭の競技者が第2 曲走路の出口からホームストレートに入ったとき「あと何回」と、主任に報告を兼ねて復唱しながら周回板の回数を変える。

## (2) 鐘の鳴らし方

- ① 最後の1周を知らせる鐘は、先頭の競技者がフィニッシュラインの手前10mぐらいに近づいたときから約3秒間鳴らす。
- ② 先頭以外の競技者には、最後の1周を知らせる鐘は2～3回鳴らす。出場者が多い場合には先頭のみでもよい(CR24.2〔国内〕)。

## (3) 周回数を記録する場合

- ① 2人1組となり1人が競技者の先頭から順次ナンバーを読み、他の1人が周回記録用紙に記入する。
- ② 多数の競技者が一団となって通過するときは、その集団の少なくとも先頭と後尾の競技者のナンバーを確実に記録するとともに、何人通過したかを確認して記録し次の周回に備える。

## (4) 周回時間を記録する場合

- ① 5,000m以上の競走・競歩競技では、すべての周回と時間を記録する。
- ② 周回の時間を記録する周回記録係は、計時員の読みあげた時間のうちあらかじめ割り当てられた競技者がフィニッシュラインを通過するときのみ時間を記録する。

## (5) 時計の読み方

- ① 計時員は周回記録員の後部中央に位置し、各競技者がフィニッシュラインを通過する15mぐらい手前から秒単位で時計を読む。
- ② 時計の分針が次の分になるときは、競技者の通過の有無にかかわらずその都度「何分」と読み上げる。

## (6) 周回遅れの競技者が出た場合の処置

- ① 主任からその競技者に周回ポイントを通過したとき告知する。
- ② 決勝審判員、計時員、写真判定員と密接な連絡をとり、フィ

フィニッシュ時の判定に誤りのないように連携する。写真判定員との連絡方法（誰が周回遅れなのか、フィニッシュする競技者と周回遅れの競技者が重なったときなど）を決めておく。

(7) 終了後の処理

- ① 競技終了後、記録した時間は割り当てられた競技者ごとに各周回の時間を整理し、速やかに主任に渡す。
- ② 1周以上遅れた競技者が出た場合には、前の周と混同しないように記録用紙への記入にあたっては特に注意する。
- ③ 各周回記録係の周回記録は、主任が各競技者の周回と時間に矛盾がないかなどを確認し、さらに決勝順位判定前に決勝審判員主任と確認しあう。
- ④ 主任は、集められた周回記録の時間を特に任命した周回記録係によって一覧表を作成させ、参考資料として公表する。

(8) ICチップによる周回記録

長距離トラック種目を対象にICチップを活用した周回を確認するシステムが開発されているので、確実な周回記録を行うための一手段として活用してもよい。

周回記録係と周回掲示板係との連携事例

周回チェック表により、残り1周とフィニッシュを知らせる。

残り1周の鐘⇒黄カードにて知らせる。

フィニッシュ⇒白カードで知らせる。



## 2組

## 周回チェック表(ナンバー/タイム)

審判長

審判員

走った距離m	走った回数	残りの回数	1	2	3	4	5		
400	1	24	1'12	1'15	1'15	1'15	1'15		
800	2	23	2'24	2'26	2'26	2'25	2'24		
1200	3	22	3'37	3'38	3'37	3'37	3'37		
1600	4	21	4'50	4'51	4'53	4'52	4'51		
2000	5	20	6'03	6'08	6'05	6'04	6'04		
2400	6	19	7'18	7'20	7'20	7'19	7'18		
2800	7	18	8'32	8'34	8'34	8'33	8'32		
3200	8	17	9'47	9'49	9'49	9'47	9'47		
3600	9	16	11'02	11'04	11'03	11'02	11'02		
4000	10	15	12'19	12'19	12'18	12'17	12'16		
4400	11	14	13'35	13'34	13'36	13'31	13'31		
4800	12	13	14'49	14'50	14'48	14'47	14'47		
5200	13	12	16'08	16'05	16'02	16'02	16'02		
5600	14	11	17'27	17'19	17'17	17'14	17'15		
6000	15	10	18'49	18'38	18'31	18'30	18'29		
6400	16	9	20'08	19'55	19'45	19'44	19'43		
6800	17	8	21'29	21'14	20'59	21'01	20'57		
7200	18	7	22'49	22'36	22'19	22'19	22'12		
7600	19	6	24'08	23'54	23'30	23'36	23'24		
8000	20	5	25'29	25'18	24'48	24'59	24'36		
8400	21	4	26'50	26'32	26'03	26'11	25'51		
8800	22	3	28'11	27'52	27'24	27'27	27'06		
9200	23	2	29'32	29'11	28'43	28'44	28'22		
9600	24	1	30'54	30'27	29'57	30'02	29'37		
10000	25	0	31'59	31'40	31'04	31'14	30'44		

## 周回表示板の置く位置

周回掲示板をフィニッシュラインの後方に置くと、走っている競技者や正面スタンドで観戦する観衆からは、フィニッシュタイマーと重なり通過タイムが見にくいという意見が寄せられている。

そこで、フィニッシュライン手前3～4mのところ周回掲示板を置いている。この位置だと、表示機器の視界の重なりを防ぐだけでなく、フィニッシュする競技者や、もう一周回する競技者への指示が出しやすいという利点がある。

ただし、競技場によっては、芝生へ機材を置かないよう制限される場合もあり、どこに置けばよいか、競技者、観客、競技運営それぞれから満足が得られるよう、検討を重ね柔軟に対応していただきたい。



## トラックでの長距離周回に トランスポンダー使用の試み

トラック競技での5000m以上の長距離競走，競歩競技では周回遅れが発生すると周回記録の誤りにより一周多く回すことになったり，写真判定ではだれがフィニッシュか見誤り，撮影抜けによる記録なしになったりするなどのトラブルが各地の大会で散見されている。この間違いを防止し大会運営を円滑にする目的で，マラソンなどに使用されているトランスポンダーを腰ナンバー標識に装着し周回を記録する方法が試みられている。周回記録員および写真判定員はこのモニターで誰が何周か判別できる。また周回遅れは色で表示されるためわかり易く審判員の負担が減り，大会運営も円滑に進む。



受信機 フィニッシュ手前  
50mのフィールド内に設置



モニター周回のNo. と周回  
遅れは色で表示される。

周回記録表 記録表として印刷

